

資料 1 - 1

発電所内のモニタリング状況等について

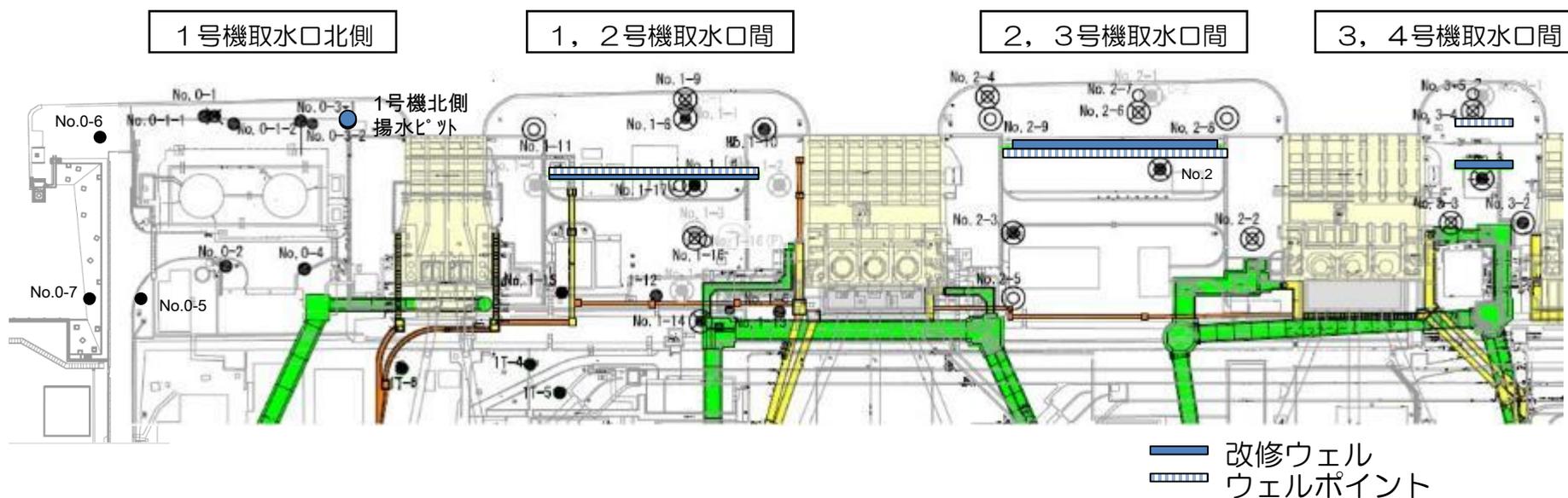
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

- (1) 港湾内・外および地下水の分析結果について**
- (2) 地下水バイパスの運用状況について**
- (3) サブドレン他水処理施設の運用状況について**

(1) 港湾内・外および地下水の分析結果について

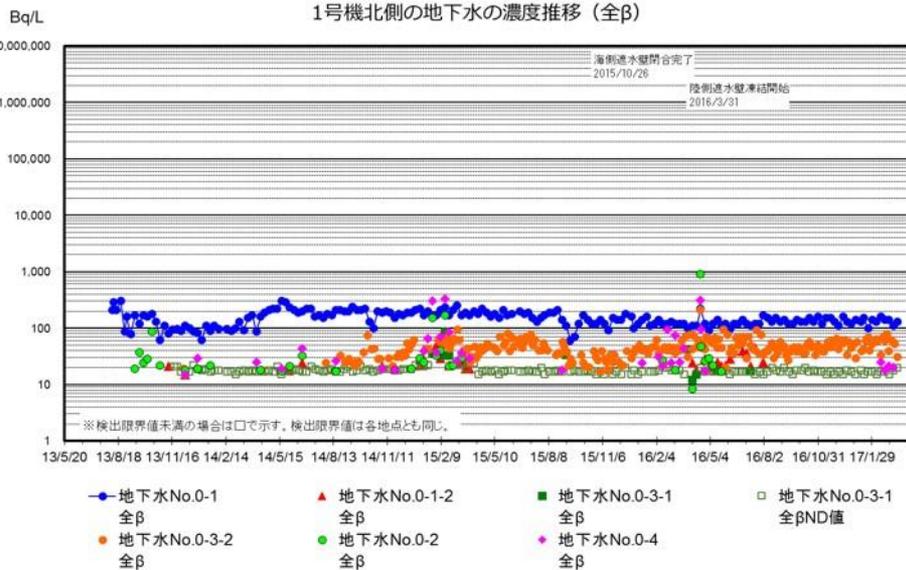
前回以降、新たな観測孔は設置していない。



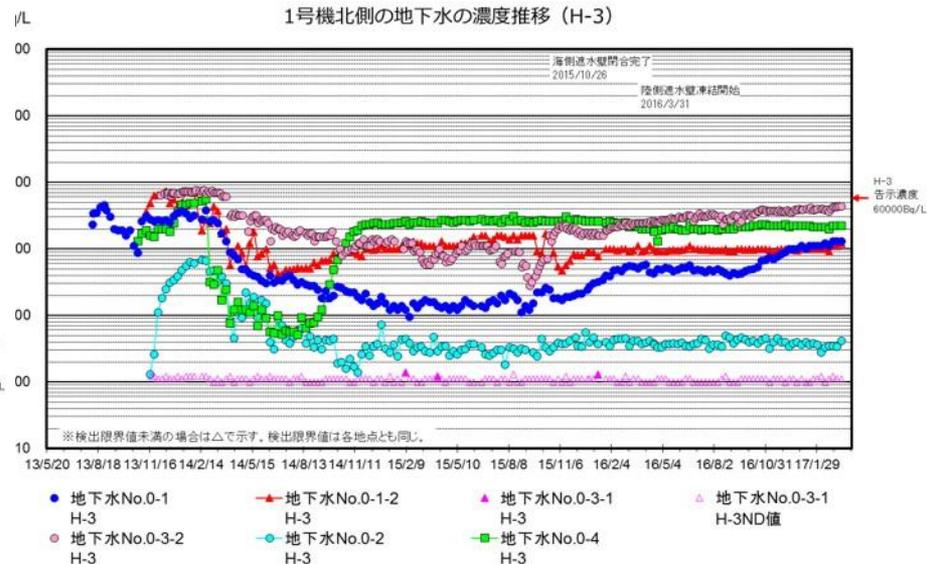
タービン建屋東側の地下水濃度の状況 <1号機取水口北側エリア>

- 先月以降、大きな変動は見られない。
- 当面監視を継続する。

1号機北側の地下水の濃度推移 (全β)

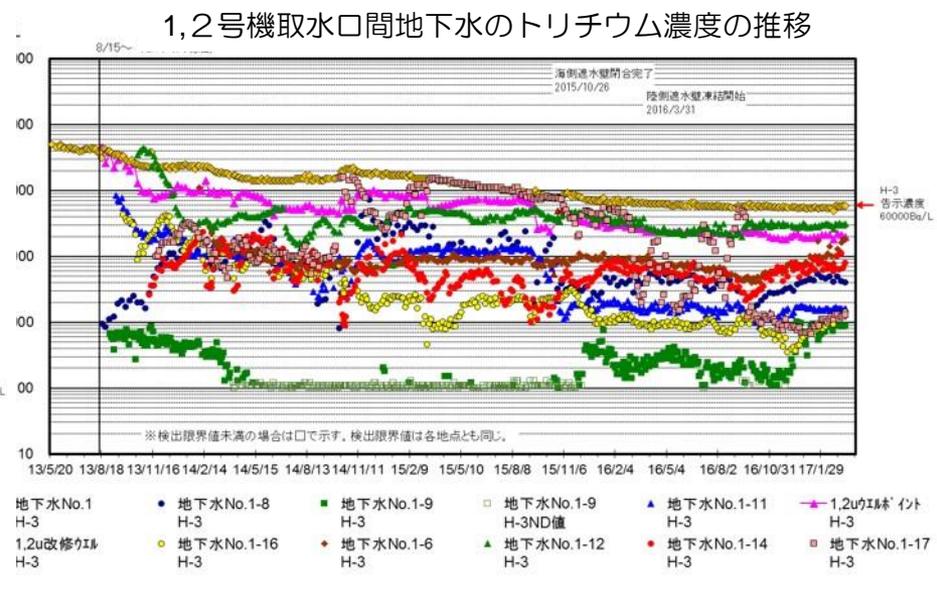
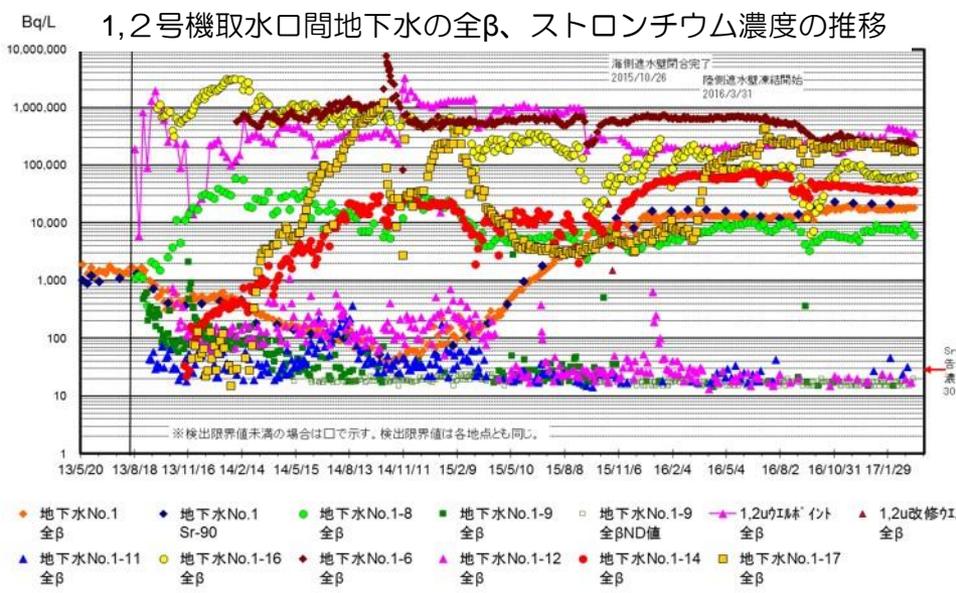


1号機北側の地下水の濃度推移 (H-3)



タービン建屋東側の地下水濃度の状況 <1,2号機取水口間エリア>

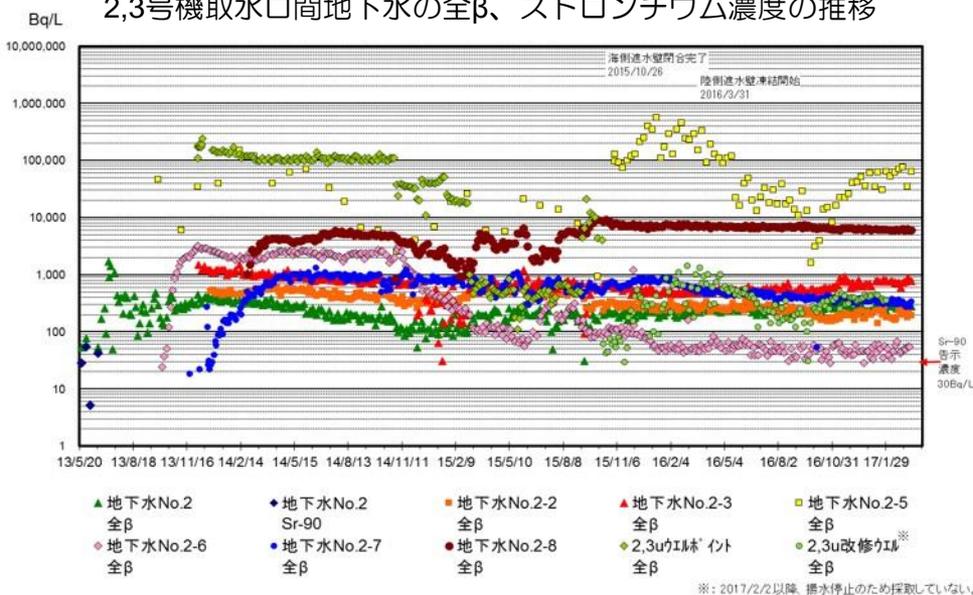
- トリチウム濃度は全体的に低下傾向が継続。12月に上昇が見られたNo.1-9は横這い状況。
- 全βは横這いの状況。
- 当面監視を継続する。



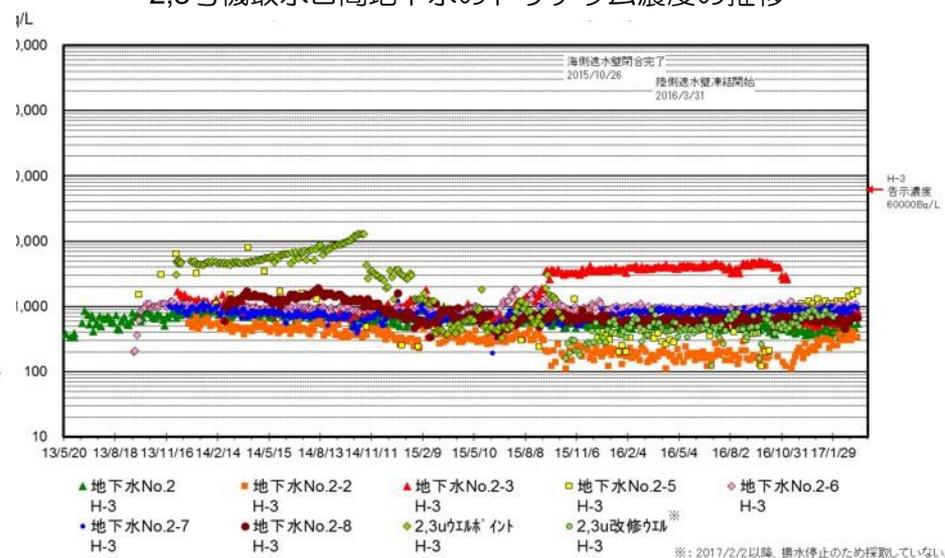
タービン建屋東側の地下水濃度の状況 <2,3号機取水口間エリア>

- 全β濃度は、No.2-5のみ変動がみられる。
- トリチウム濃度は、低濃度で概ね横這い状態。
- 当面監視を継続する。

2,3号機取水口間地下水の全β、ストロンチウム濃度の推移

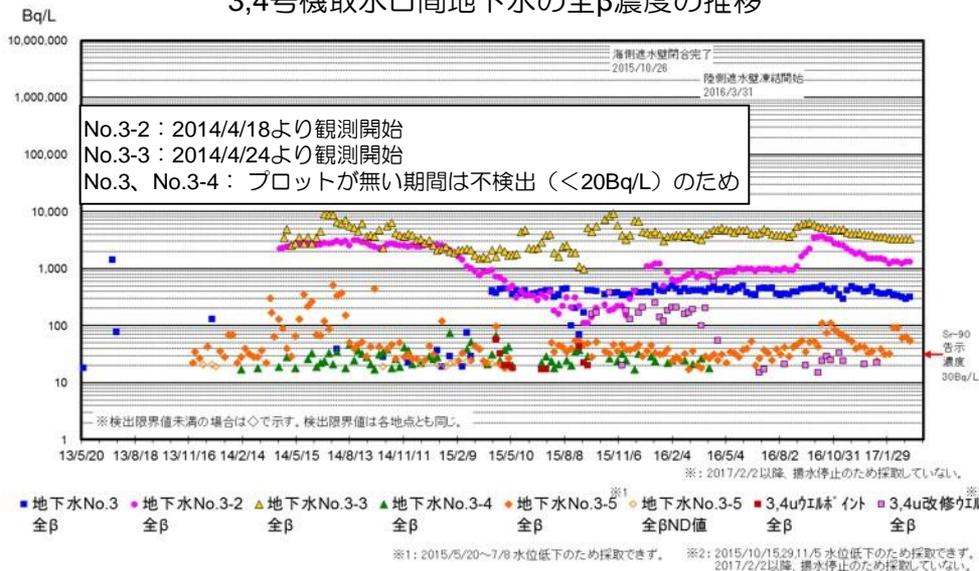


2,3号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移

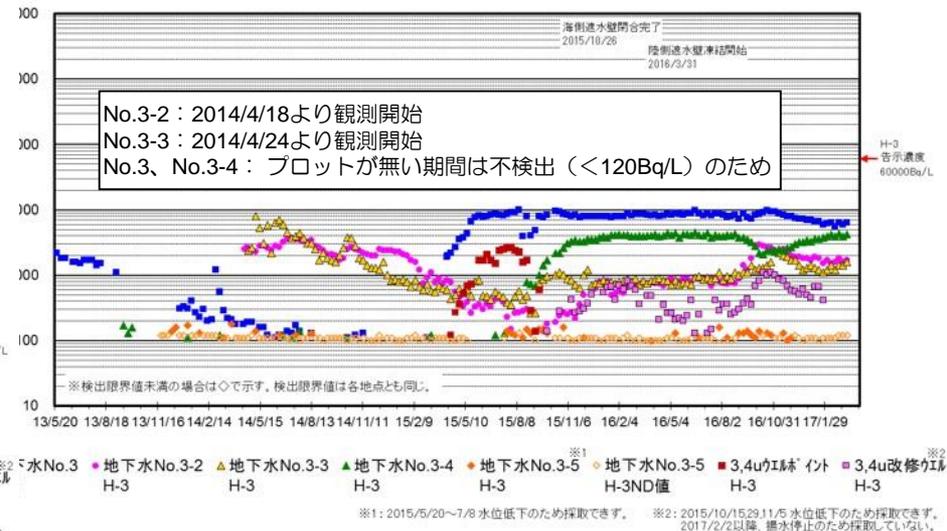


- 9月から10月に、No.3-2観測孔などで全β濃度、トリチウム濃度が上昇したが、現在は低下又は横這い状況。
- 9月にトリチウム濃度が低下したNO.3-5は、逆に低下前の濃度に戻った状況。
- 当面監視を継続する。

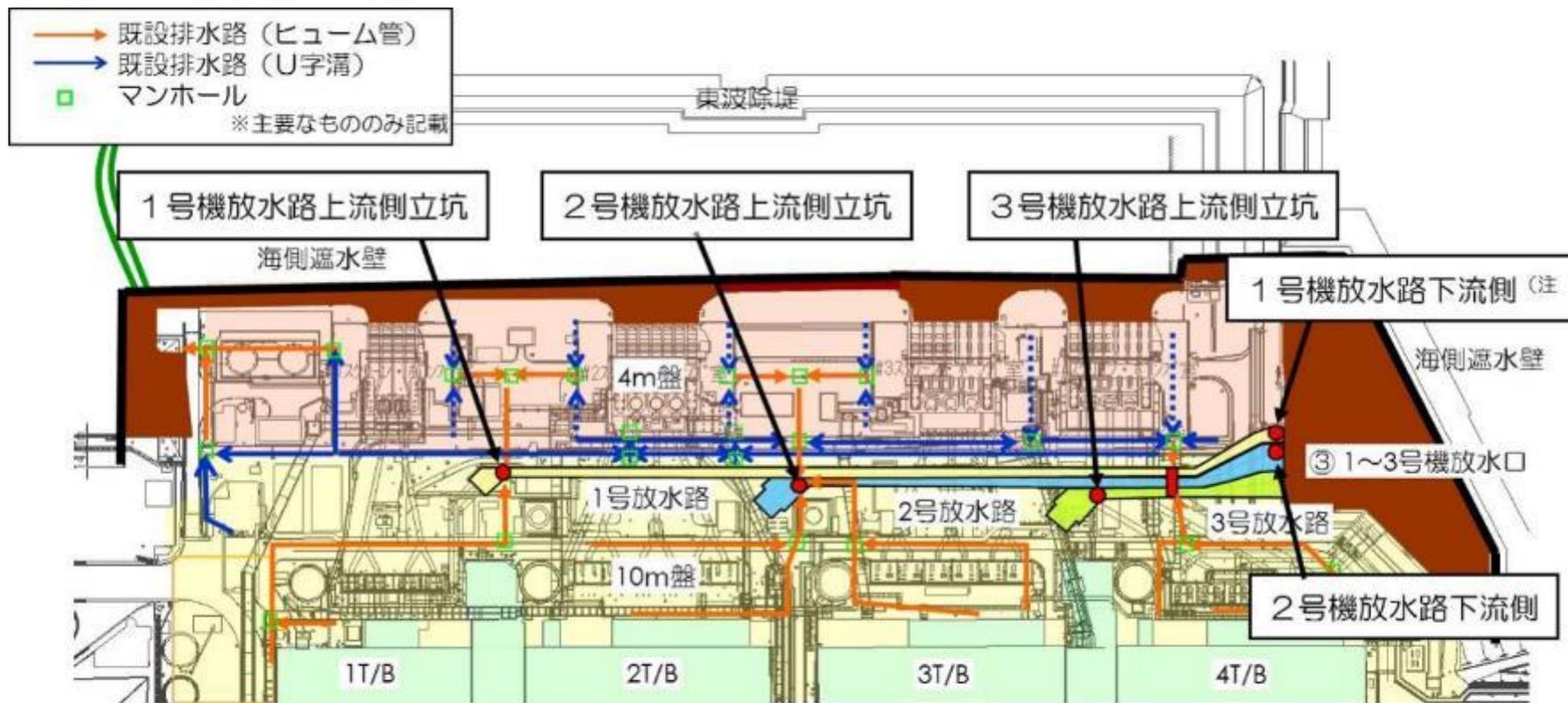
3,4号機取水口間地下水の全β濃度の推移



3,4号機取水口間地下水のトリチウム濃度の推移



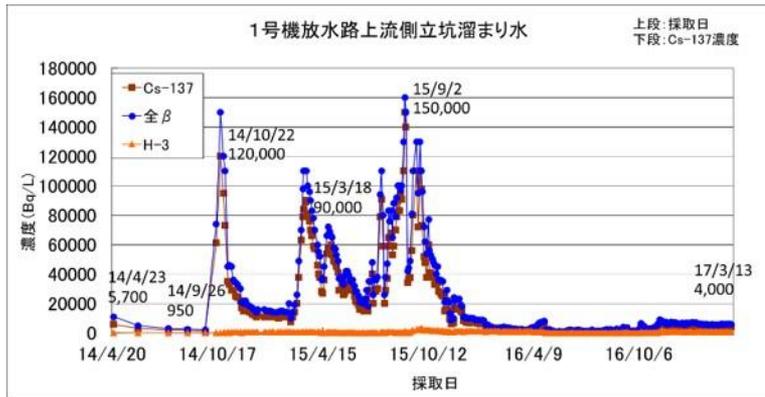
1～3号機放水路及びサンプリング位置図（平面図）



注:ゼオライト土のう設置(2月)以降、放水口から下流側立坑へのアクセス不可のため、放水口上部より採水

1号機放水路サンプリング結果

- 上流側立坑たまり水のセシウム137濃度は、昨年5月以降1,000~2000Bq/L前後で横這い状態であったが、11月に7000Bq/L前後に上昇。その後低下し、現在は4000Bq/L前後で横這い状態。
- 下流側の溜まり水のセシウム137濃度には、上昇傾向は見られていない。当面監視を継続。
- 放水路浄化装置は停止中。



1号機上流側立坑流入水
(1号T/Bルーフレン
・T/B東側地表)
調査日: 14/10/6
Cs134: 420
Cs137: 1500
全β : 1400
H3 : 9.9
(単位: Bq/L)

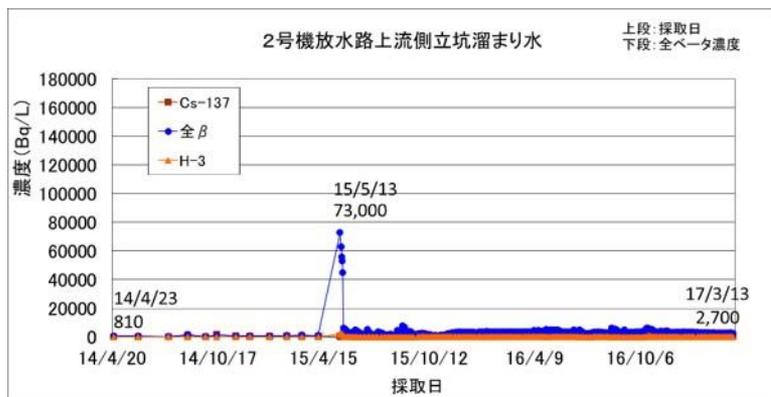


1号機放水路縦断図 (縦横比 1 : 5)

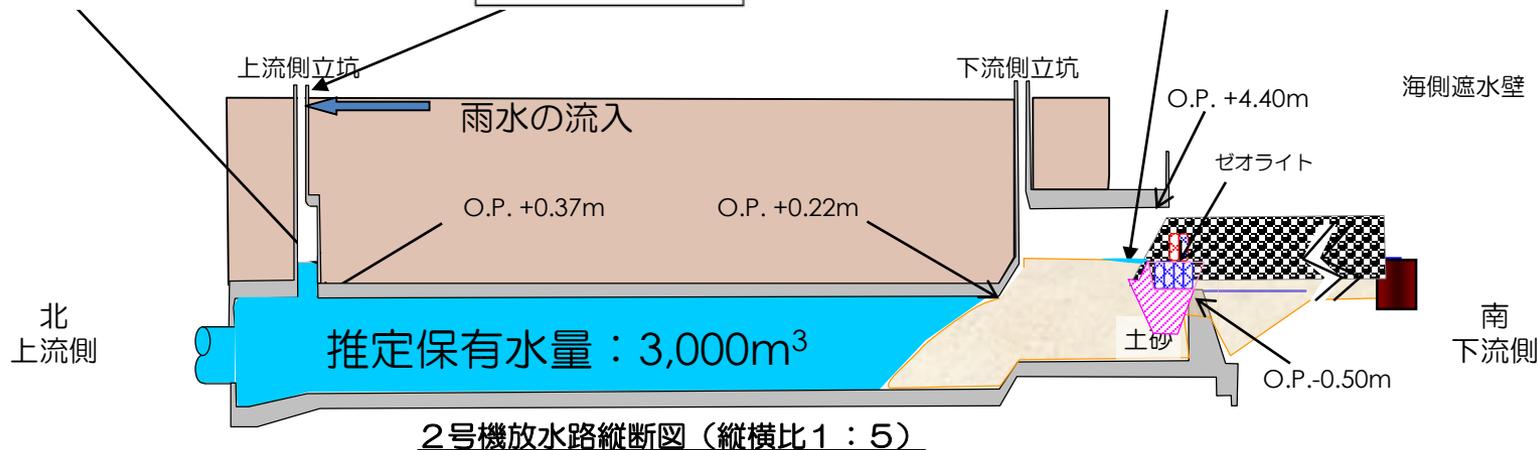
注: 放水口へのゼオライト設置により、放水口内への立ち入りができなくなったことから、2015/3/20より放水口上部開口部から採水することとした。

2号機放水路サンプリング結果

- 2号機放水路 上流側立坑の溜まり水の全ベータ濃度は、横這い状態で推移。降雨時に一時的にセシウム濃度の上昇に伴って上昇するものの、2015年5月のような急上昇はみられておらず、3,000~4,000Bq/L程度で推移。
- 下流側（放水口）の濃度も低濃度で、上昇は見られない。



2号機上流側立坑南側流入水
 (3号T/Bルーフ・T/B東側地表)
 調査日: 15/5/19
 Cs134: 1,500
 Cs137: 5,700
 全β: 7,700
 H3: ND(110)
 (単位: Bq/L)



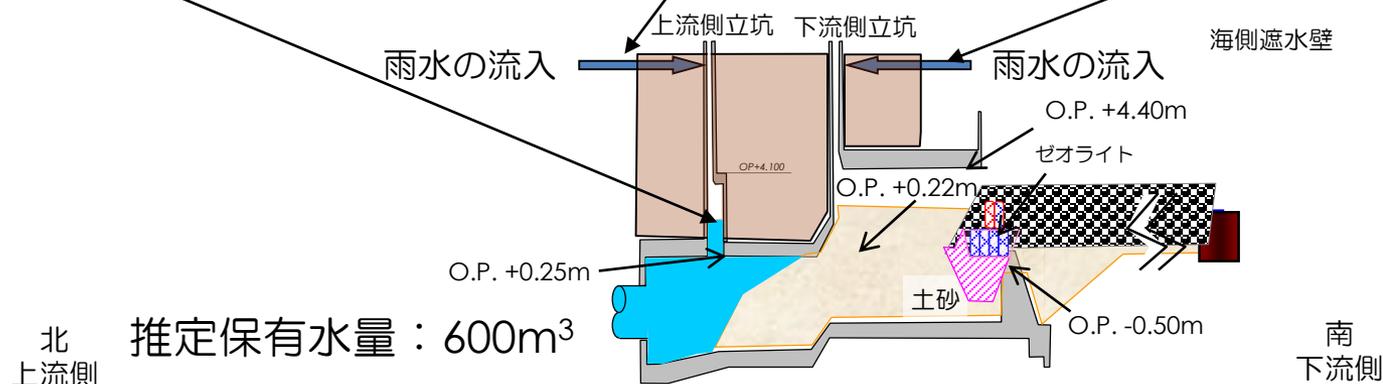
3号機放水路サンプリング結果

- 3号機放水路上流側立坑溜まり水のセシウム濃度は、降雨により若干の上下はあるものの、1,000~2,000Bq/L程度で推移。
- 引き続きモニタリングを継続する。



3号機上流側立坑流入水
 (3号S/B1-7トレンチ・T/B東側地表)
 調査日：14/6/12
 Cs134：1,400
 Cs137：4,100
 全β：4,800
 H3：ND(9.4)
 (単位：Bq/L)

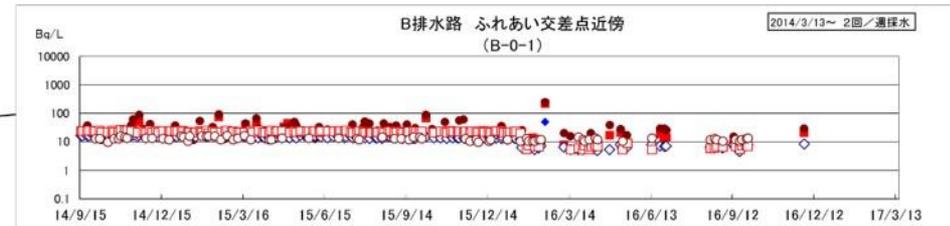
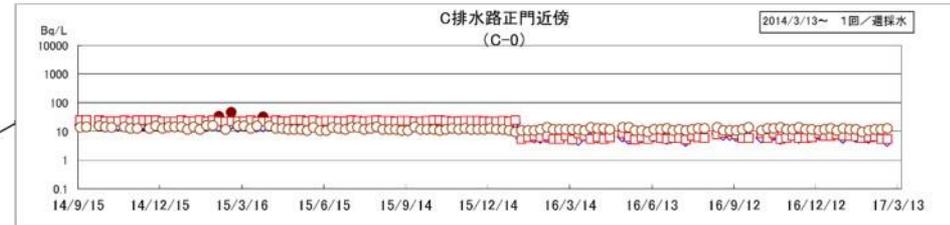
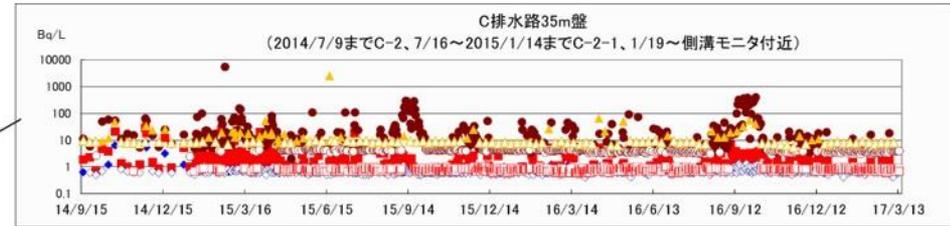
3号機下流側立坑流入水
 (4号T/B建屋周辺雨水)
 調査日：14/6/12
 Cs134：1,000
 Cs137：2,800
 全β：3,900
 H3：13
 (単位：Bq/L)



3号機放水路縦断面図

排水路の放射能濃度推移 (その1 BC排水路)

- 11月以降は降雨が少なく、低濃度で推移。



※ B排水路ふれあい交差点近傍は、流量が少ないため、採水できずに欠測となる場合がある。



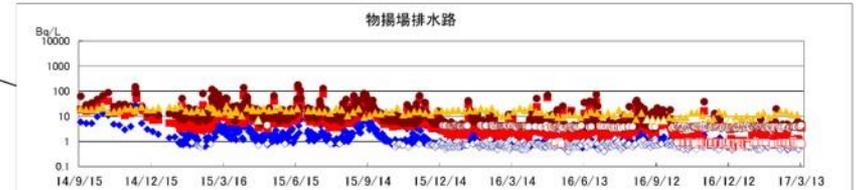
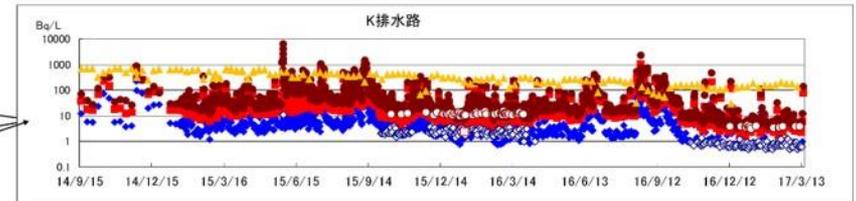
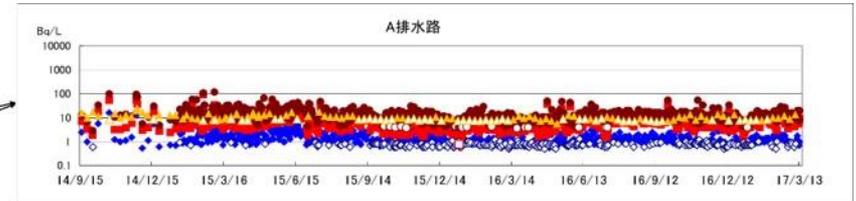
※C排水路正門近傍(C-0)及びB排水路 ふれあい交差点近傍(B-0-1)は、測定器の変更により、2016/1/20採取分よりCs-134、Cs-137の検出限界値が低下。

排水路の放射能濃度推移 (その2 K排水路、A排水路、物揚場排水路) **TEPCO**

- 11月以降、降雨時の一時的な上昇を除けば、K排水路のセシウム濃度は大きく低下。
- A排水路、物揚場排水路は、降雨時も上昇幅は小さく、概ね低濃度で推移。
- 引き続き、除染、フェーシング、清掃などの対策を継続。



- 採水地点 (2015年1月14日以前)
- 採水地点 (2015年1月19日以降)
- 採水地点 (2016年3月28日以降 (K排水路付替に伴い変更))



1～4号機取水口付近の海水サンプリング結果

- 海側遮水壁閉合以降、放射性物質濃度が低下。
- 10月以降は降雨が減少し、低濃度で推移。
- 昨年11月22日の地震に伴う津波により破損したシルトフェンスを1月27日に復旧完了。
- 損傷防止のためにシルトフェンス位置を若干南側に移動したことから、1～4号機取水口内北側（東波除堤北側）の採取点も2月11日採取分より南側に移動。（約50m）

【告示濃度】Cs-137:90Bq/L, Sr-90:30Bq/L, H-3:60000Bq/L

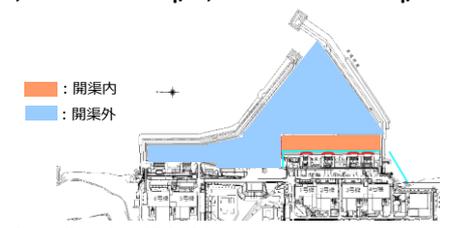
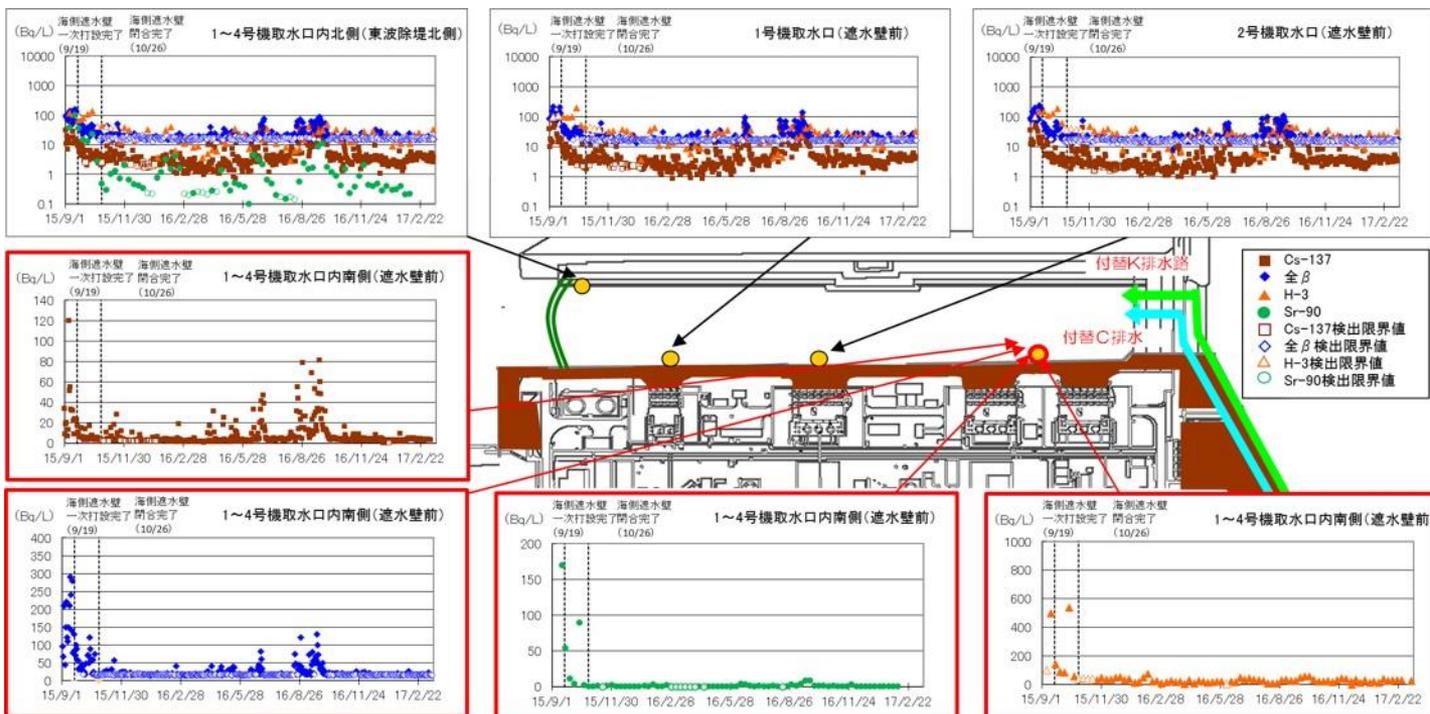


表 海側遮水壁閉合前後の
港湾内海水中放射性物質濃度平均値

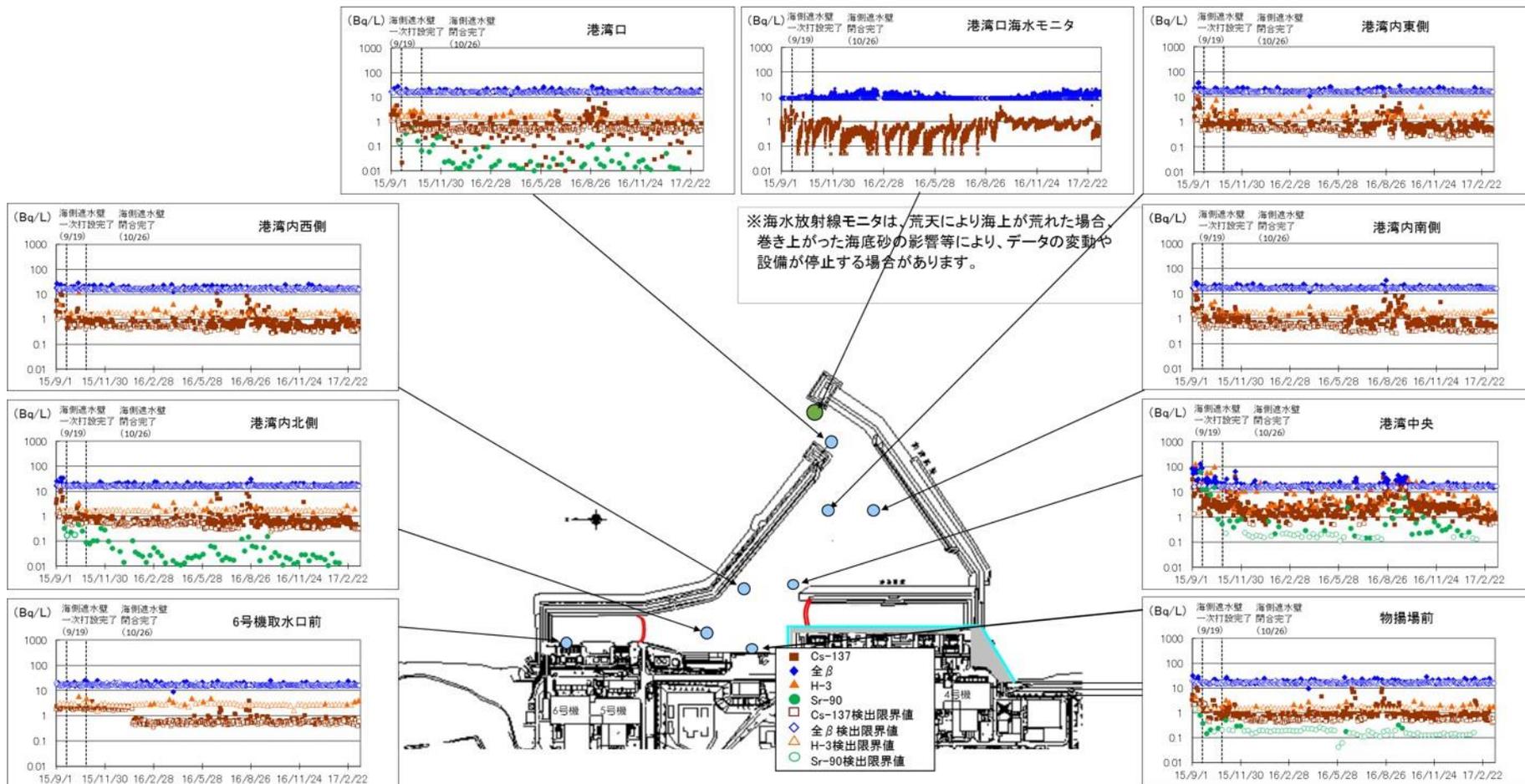
		前5日間 平均値※1	後5日間 平均値※2	至近 平均値※3
全β	開渠内	150	26	18
	開渠外	27	16	17
Sr-90	開渠内	140	8.6	0.38
	開渠外	16	2.1	0.10
Cs-137	開渠内	16	3.8	3.5
	開渠外	2.7	1.1	0.63
H-3	開渠内	220	110	22
	開渠外	1.9	9.4	2.1

※1 H-3については、前5日間のデータがないため、前10日間の平均値
 ※2 後5日間は、地下水ドレン水位が一定及び降雨がない期間を選定
 ※3 全βとCs-137は3/6、Sr-90開渠内(速報値)は2/20、Sr-90開渠外は1/23、H-3は2/27に採取した各地点の平均値

※1～4号機取水口内南側（遮水壁前）は、最後に遮水壁閉合を実施した箇所。海水のサンプリング地点としては、閉合完了まで、地下水の影響を最も受けていた箇所。
 ※1～4号機取水口付近の海水のCs-137濃度は、2016年1月19日採取分より検出限界値を変更（2.4→0.7Bq/L）

港湾内の海水サンプリング結果

- 1～4号機取水口付近同様、海側遮水壁閉合以降、放射性物質濃度が低下
- 昨年10月以降は降雨が減少し、低濃度で推移。



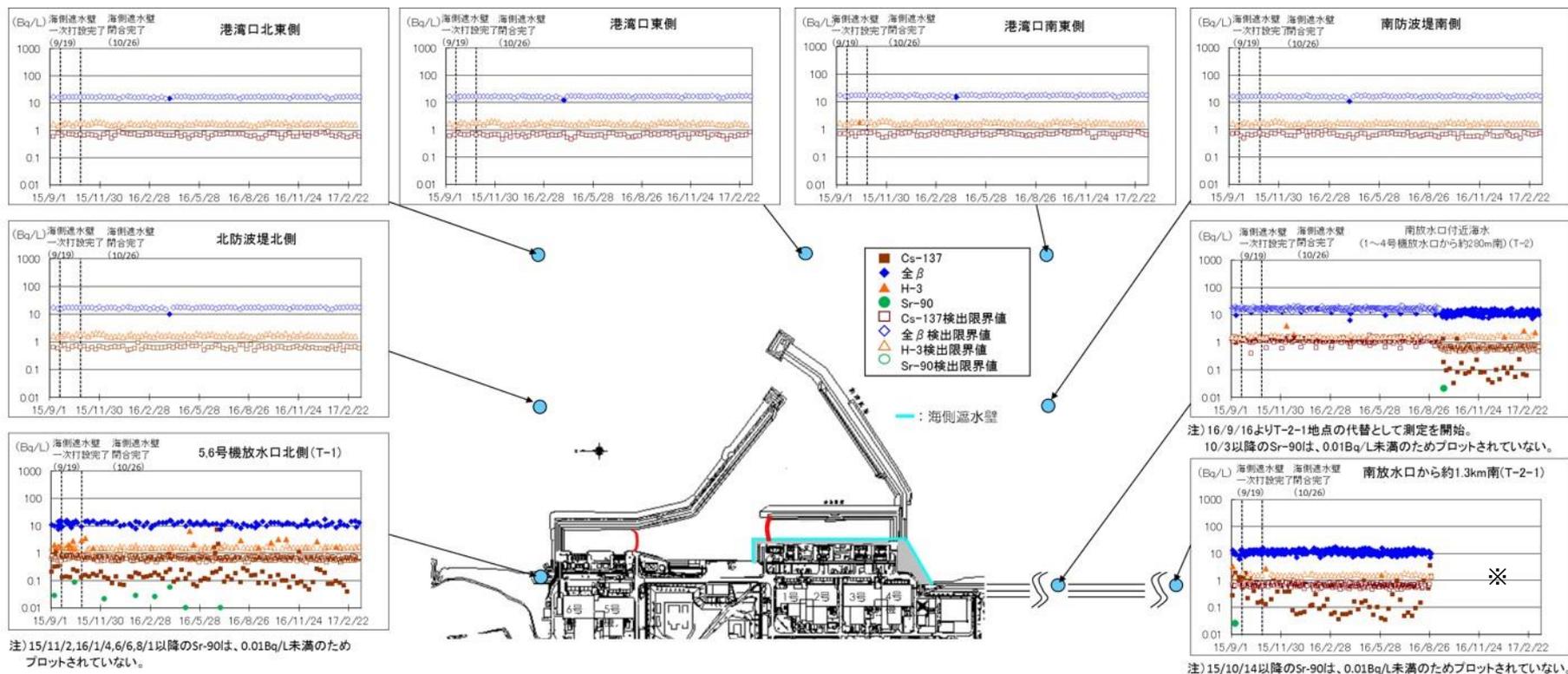
※ 6号機取水口前の海水のCs-137濃度は、2016年1月20日採取分より検出限界値を変更（2.4→0.7Bq/L）

※ 港湾口においては、セシウム137について、週1回詳細分析を実施。

※ 港湾内東側、西側、南側、北側の海水のCs-137濃度は、2016年6月1日採取分より検出限界値を変更（0.7→0.4Bq/L）

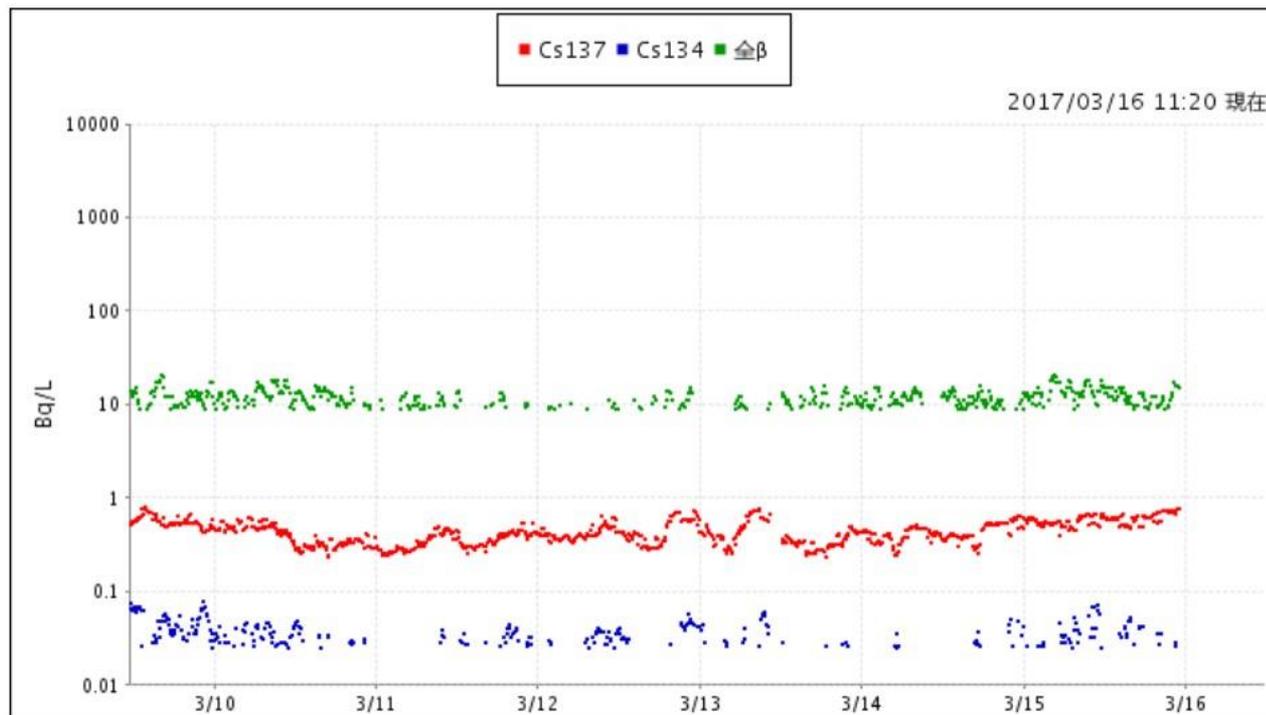
港湾外（周辺）の海水サンプリング結果

- 港湾外の各採取点は、従来より低濃度であり、ほとんどが検出限界未満を継続。
- 南放水口付近海水（南放水口から330m南）（T-2）地点は、護岸部の復旧工事の関係で、1月27日以降約50m北に移動。（南放水口から280m南に変更）



- ※ 海域における10Bq/L前後の全β放射能の検出は、海水中の天然カリウム（約12Bq/L）の影響を受けているものと考えられる。
- ※ 5, 6号機放水口北側（T-1）及び南放水口から約1.3km南（T-2-1）地点においては、セシウム137について、週1回詳細分析を実施。
- ※ 南放水口から約1.3km南（T-2-1）地点は、2016年の台風10号の影響により海岸付近が崩れて試料採取作業の安全が確保できないため8/31より採取を中止し、南放水口付近海水（1～4号機放水口から280m南）（T-2地点）にて代替測定を実施中。

<参考> 港湾口海水モニタの測定結果



※検出限界値未満 (ND) の場合は、グラフにデータが表示されません。
(検出限界値)

- ・セシウム (Cs)134 : 0.02 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 0.05 Bq/L
- ・全β : 8.7 Bq/L

※海水放射線モニタは、荒天により海上が荒れた場合、巻き上がった海底砂の影響等により、データが変動する場合があります。

※参 考 「福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則」に定める告示濃度限度は、以下の通り。

- ・セシウム (Cs)134 : 60 Bq/L
- ・セシウム (Cs)137 : 90 Bq/L

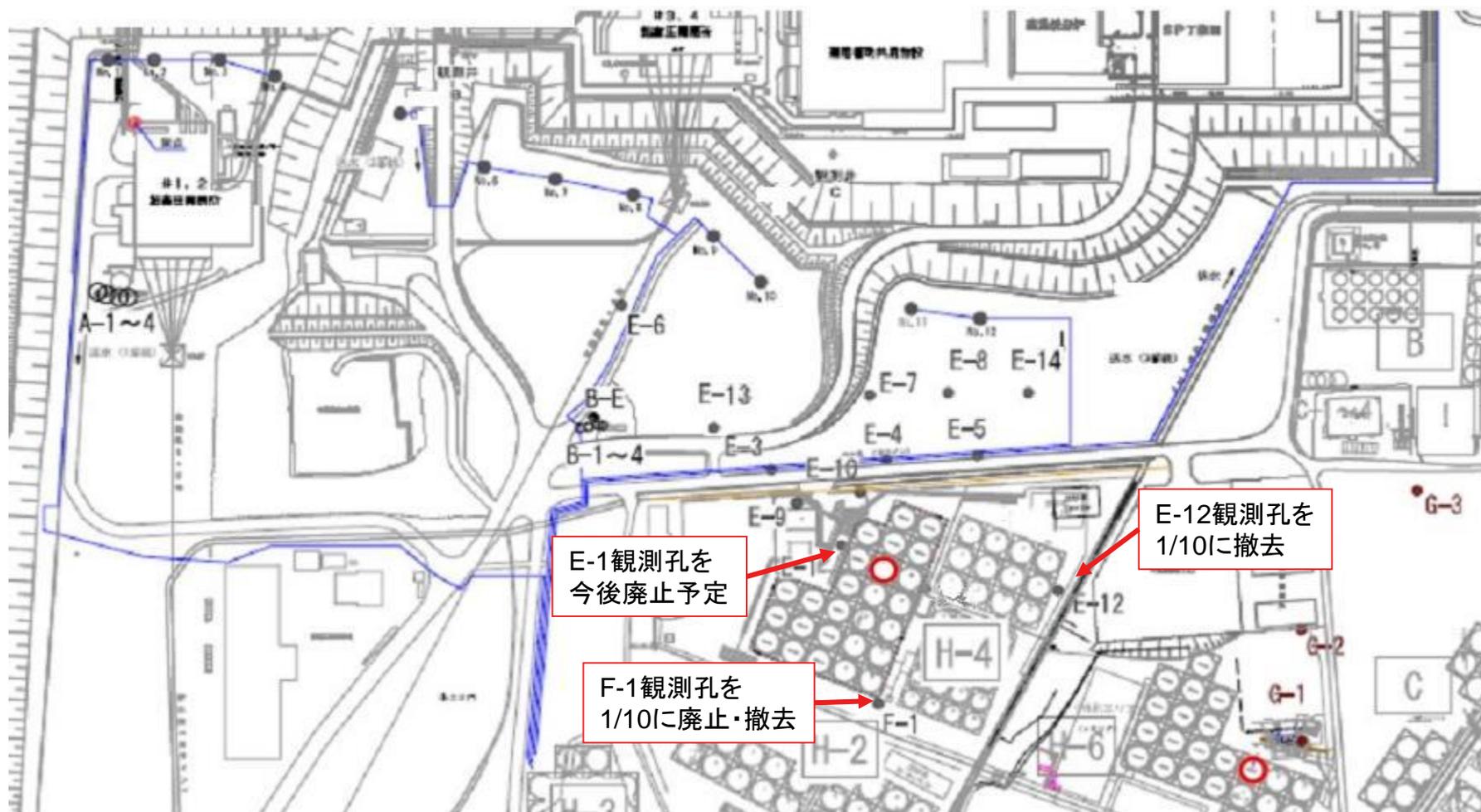
○ 設備の不具合および清掃・点検保守作業等により、データが欠測する場合があります。

○ 2017年3月15日午後11時頃より、設備の不具合によりデータが欠測しております。3月16日は波が高いため、3月17日以降現場を確認し復旧作業を行います。なお、他の海水測定結果等に異常はありません。

タンクエリア周辺の状況

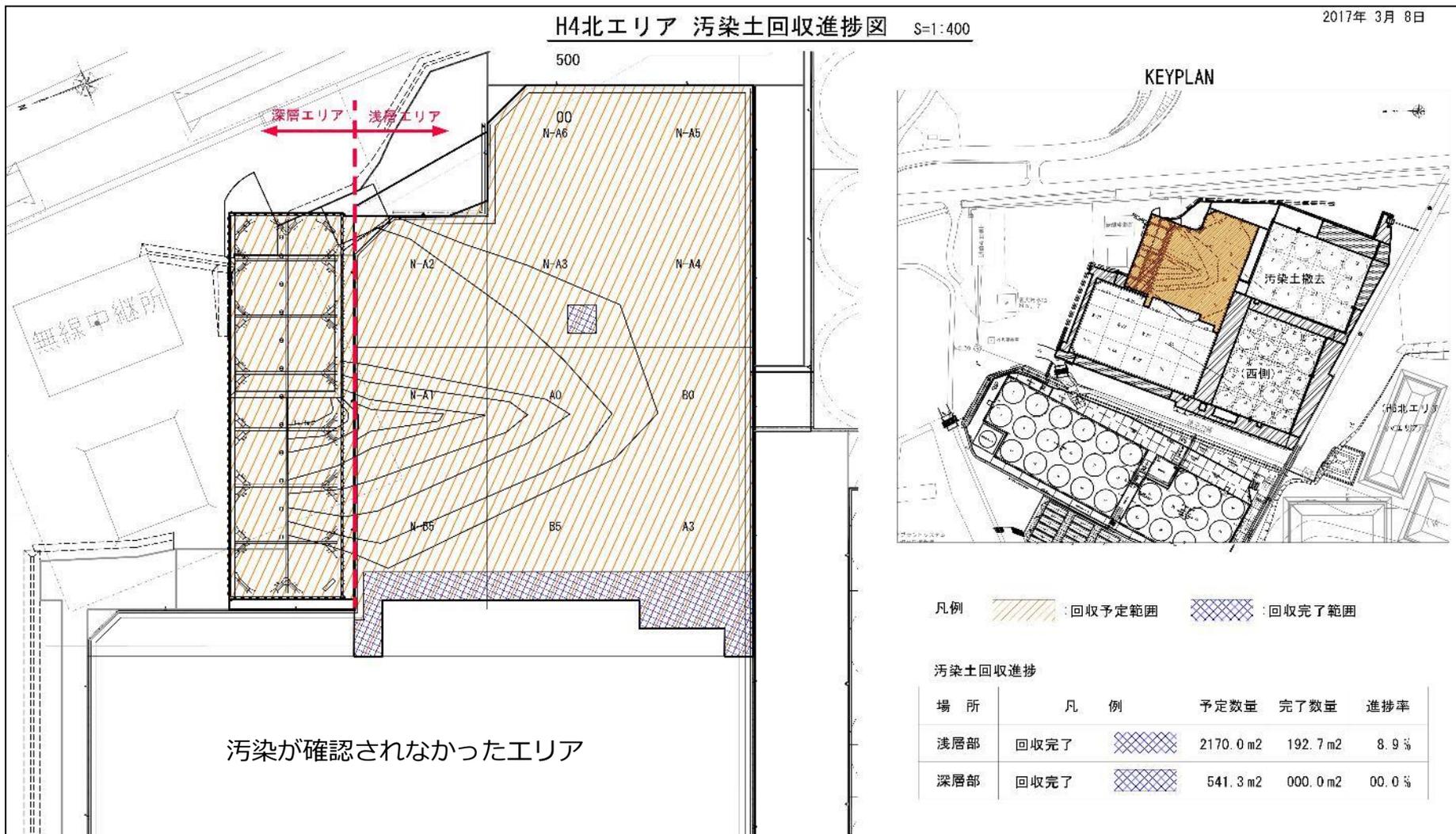
タンクエリア周辺の地下水観測孔等の位置

- 先月以降、新たな観測孔の設置は無い。
- H4タンクエリアは、タンクリプレースに伴いタンク基礎下部に残留している汚染土壌の回収作業を開始。
- 今後、当該部の土壌回収時にE-1の廃止を予定

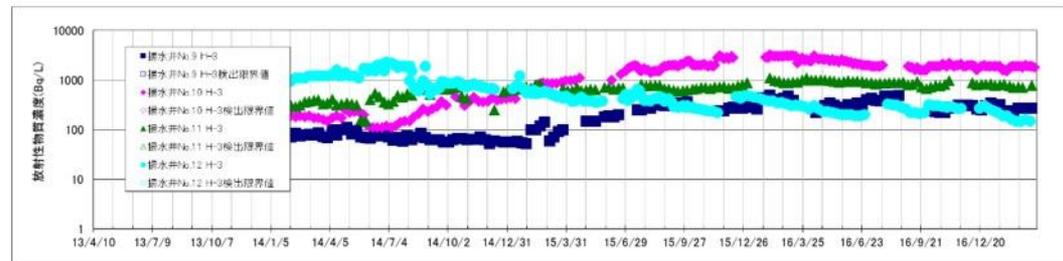
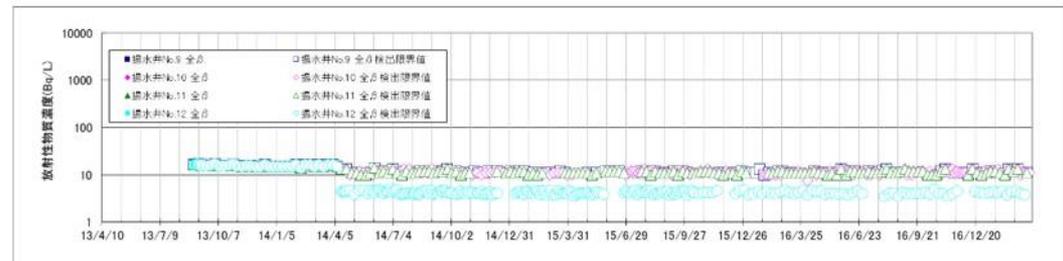
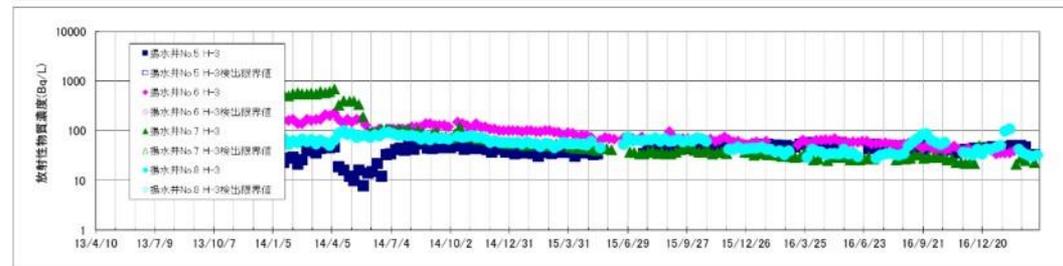
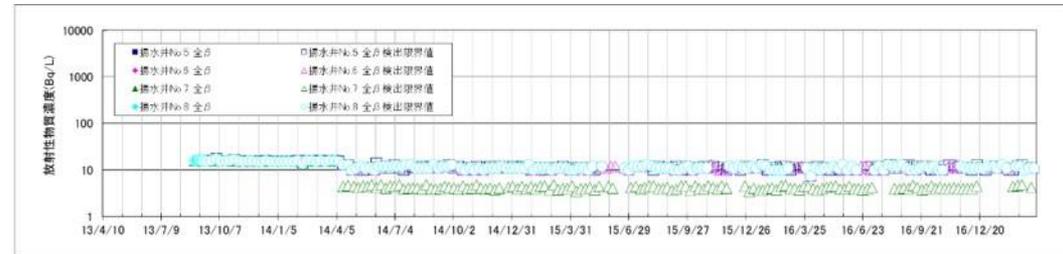


H4タンクエリアの土壌回収状況

- 2013年に漏えいのあったH4タンクエリア北側の土壌回収作業を、2017年3月6日より開始。
- 進捗状況については下記の通り。

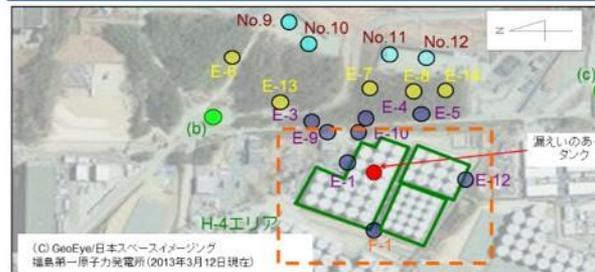
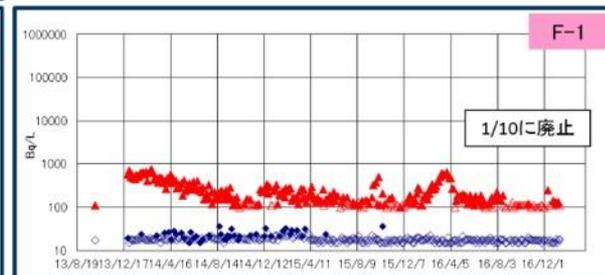
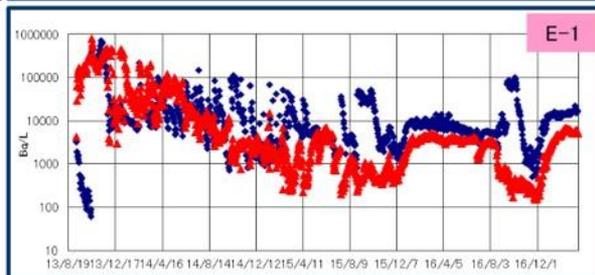
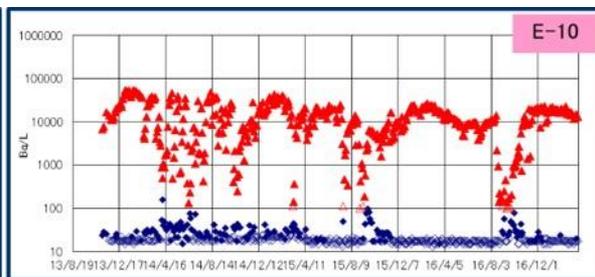
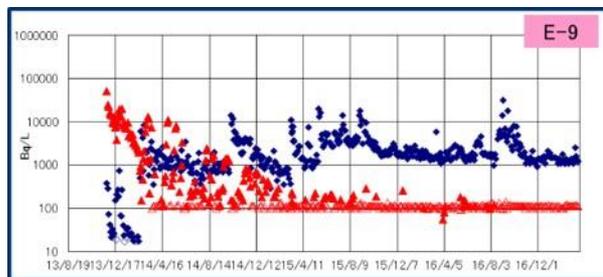


- 揚水井No.10のトリチウム濃度は、徐々に低下。
- その他の揚水井のトリチウム濃度は、1,000Bq/L程度以下で推移。
- 全βには特に変化はみられていない。
- 引き続きモニタリングを継続する。



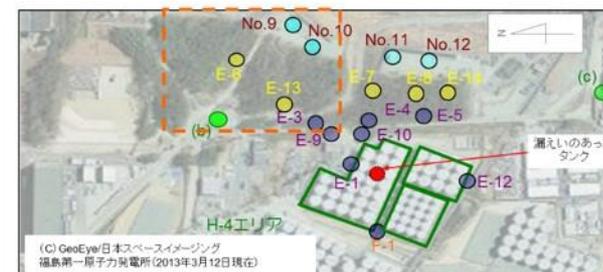
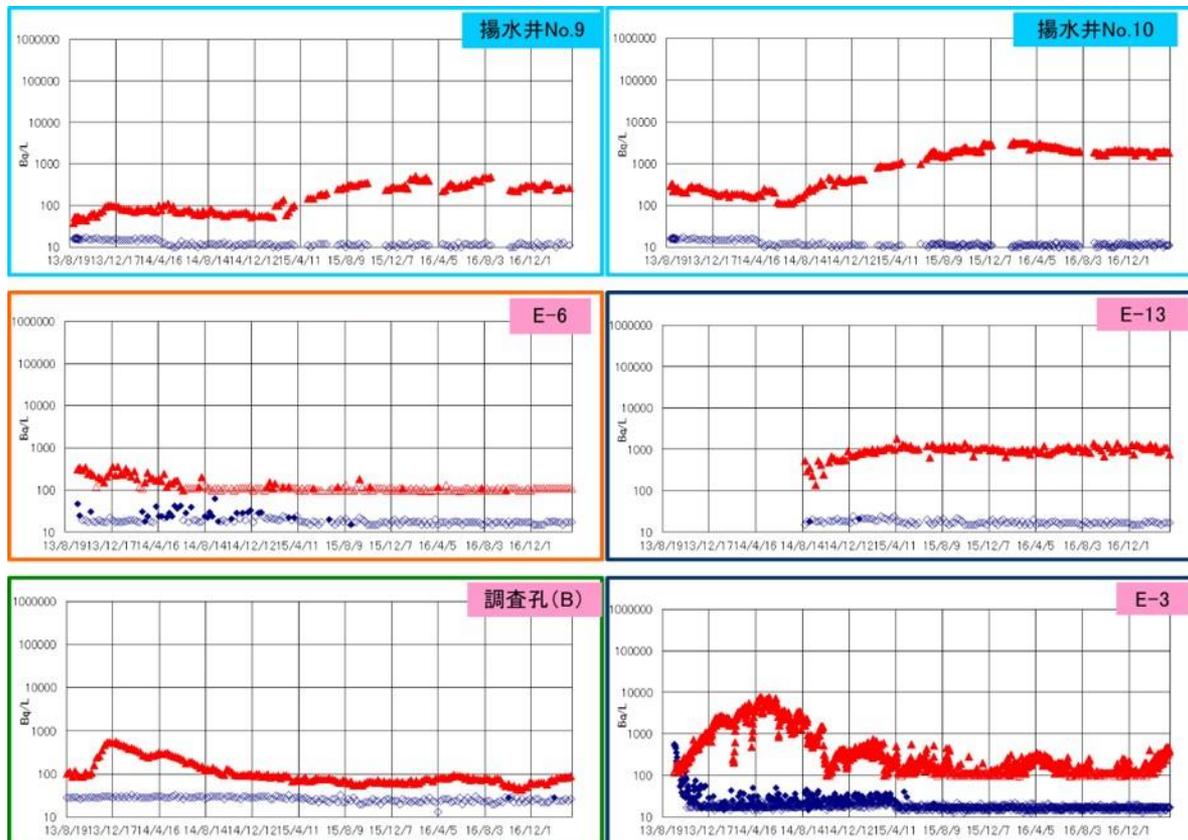
観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア)

- 1月以降、E-1, E-9、E-10観測孔は横這い状況。
- 当面、モニタリングを継続する。



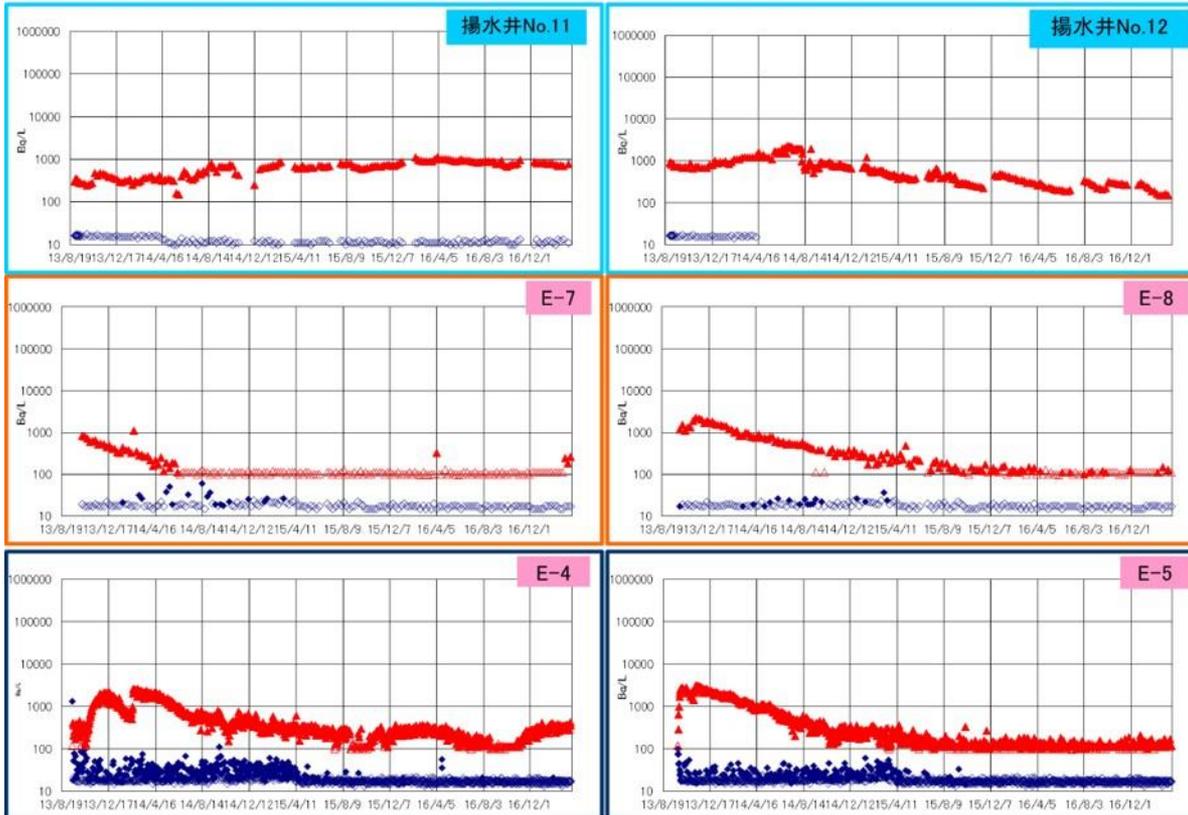
観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア北東側)

- 1月末以降、E-3のトリチウム濃度が若干上昇したものの、現在はほぼ横這い。
- その他の観測孔では、前回以降、変化はみられない。

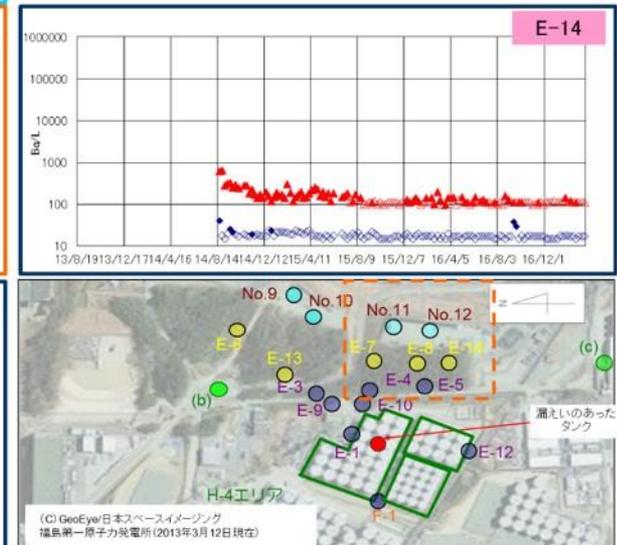


観測孔の放射能濃度推移 (H4タンクエリア南東側)

- 1月以降、各観測孔の濃度は横這い状態。
- 全体の傾向に大きな変化はみられない。

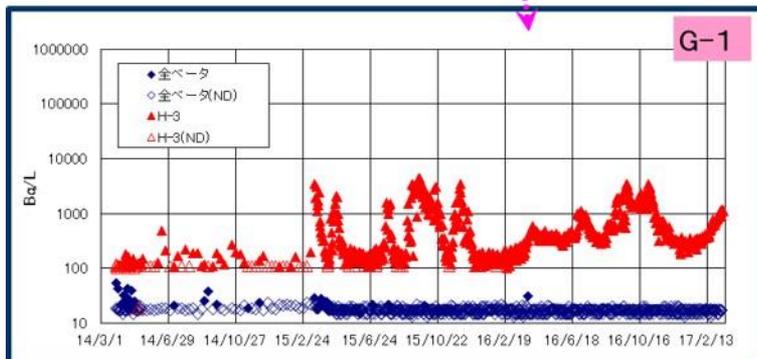
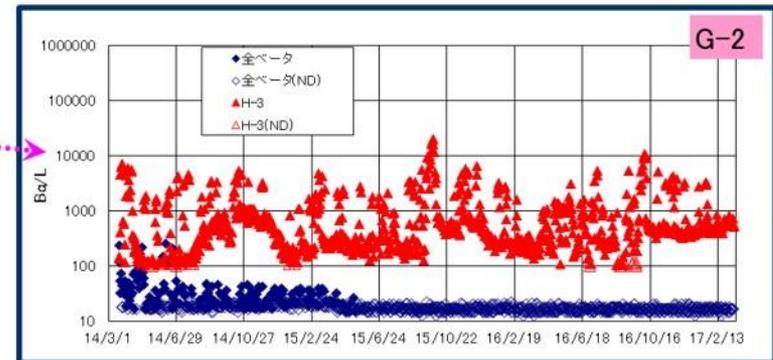
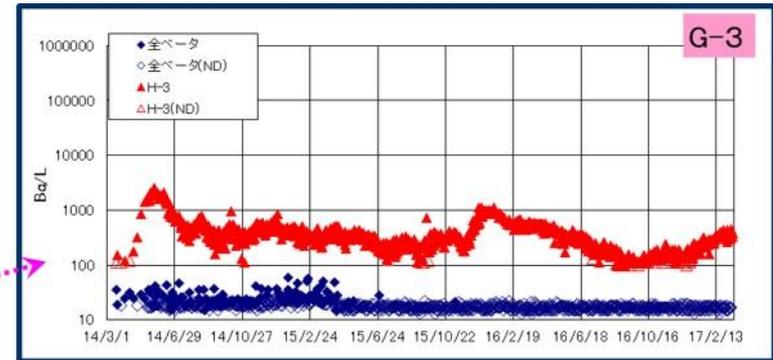
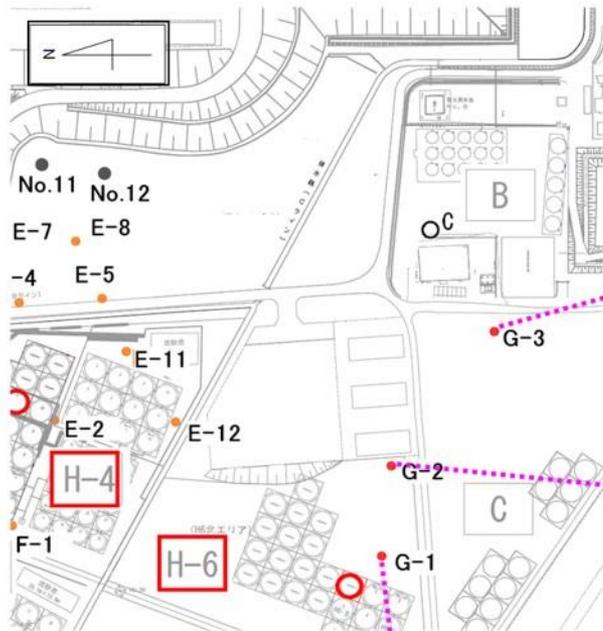


注: 揚水井No.12の全β濃度は、4/15以降も不検出であるが、検出下限値を5Bq/L以下に下げて運用しているため、グラフ上にプロットされていない。



観測孔の放射能濃度推移 (H6タンクエリア周辺)

- トリチウム濃度は、1月以降、G-1、G-3で若干上昇が見られたが、過去の変動の範囲内。
- 全ベータ濃度は、いずれの観測孔も低濃度で変化は見られない。
- 引き続き監視を継続する。



地下貯水槽のモニタリング状況

- 地下貯水槽No.1～3は、2013年4月に漏洩が確認されて以降、モニタリングを強化し、監視を継続中。
- 昨年3月以降、周辺観測孔で全β濃度の検出が見られたが、濃度は50Bq/L未満が多く、上昇も一時的。昨年10月以降は、ほとんど不検出。
- 地下貯水槽No.1、No.3については、既に水抜き※は完了しているが、残るNo.2についても、3月16日に水抜き※を完了。 ※ポンプ汲み上げ可能レベルまで水抜き
- 未使用の地下貯水槽No,5の撤去について、実施計画変更申請中。



図 地下貯水槽No.1～3の位置

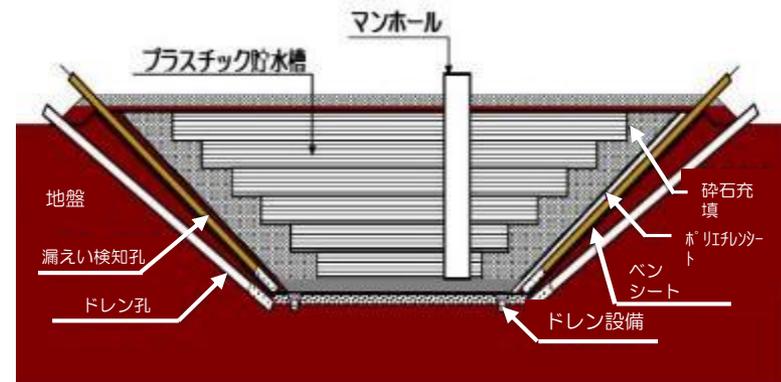


図 地下貯水槽の構造

地下貯水槽No.1～3周辺のモニタリングの状況（周辺観測孔）

- 地下貯水槽の周辺観測孔では、昨年3月1日の検出以降、監視を強化中。
- 昨年10月以降、濃度の上昇はほとんどみられなくなっている。

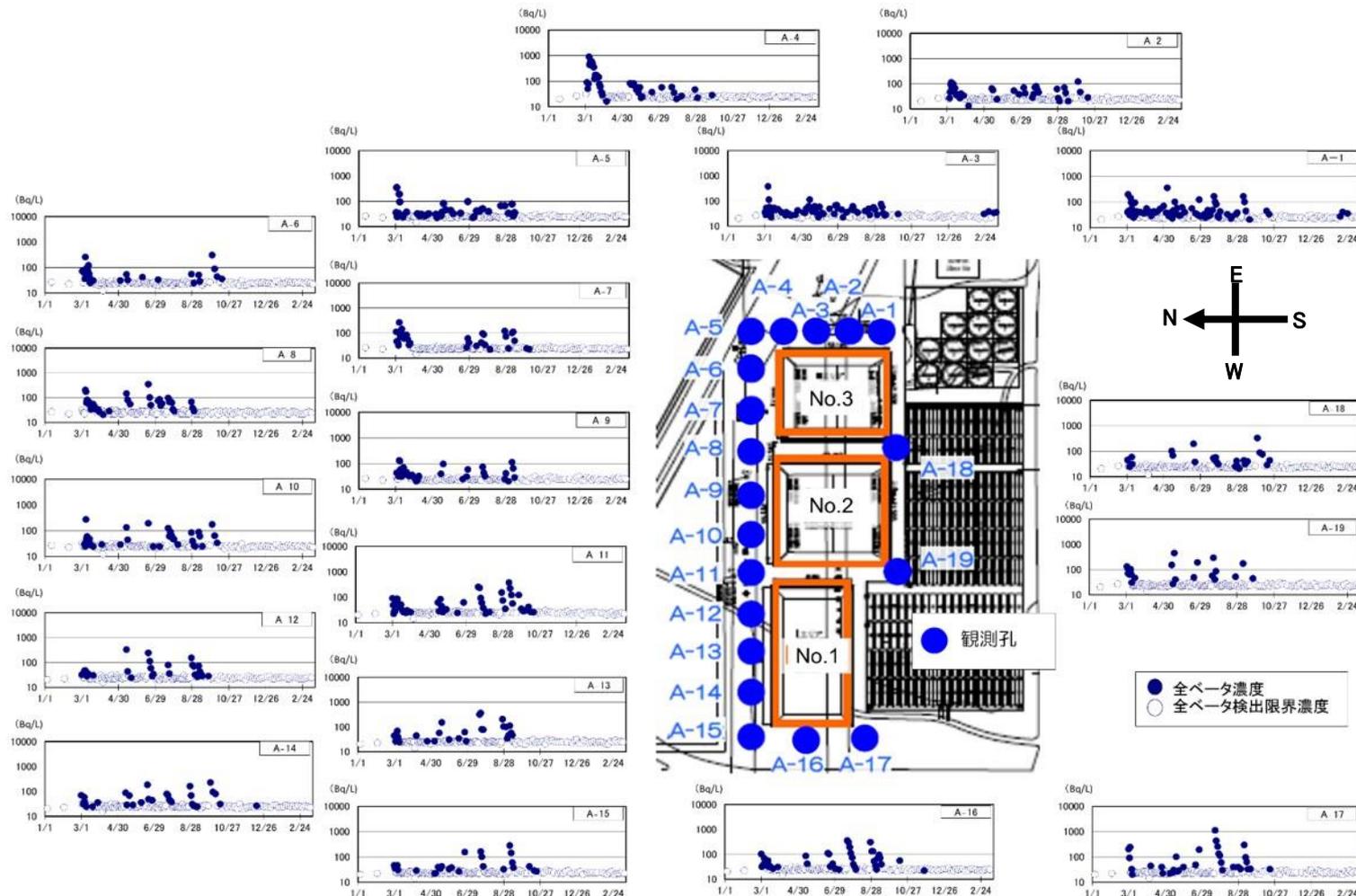
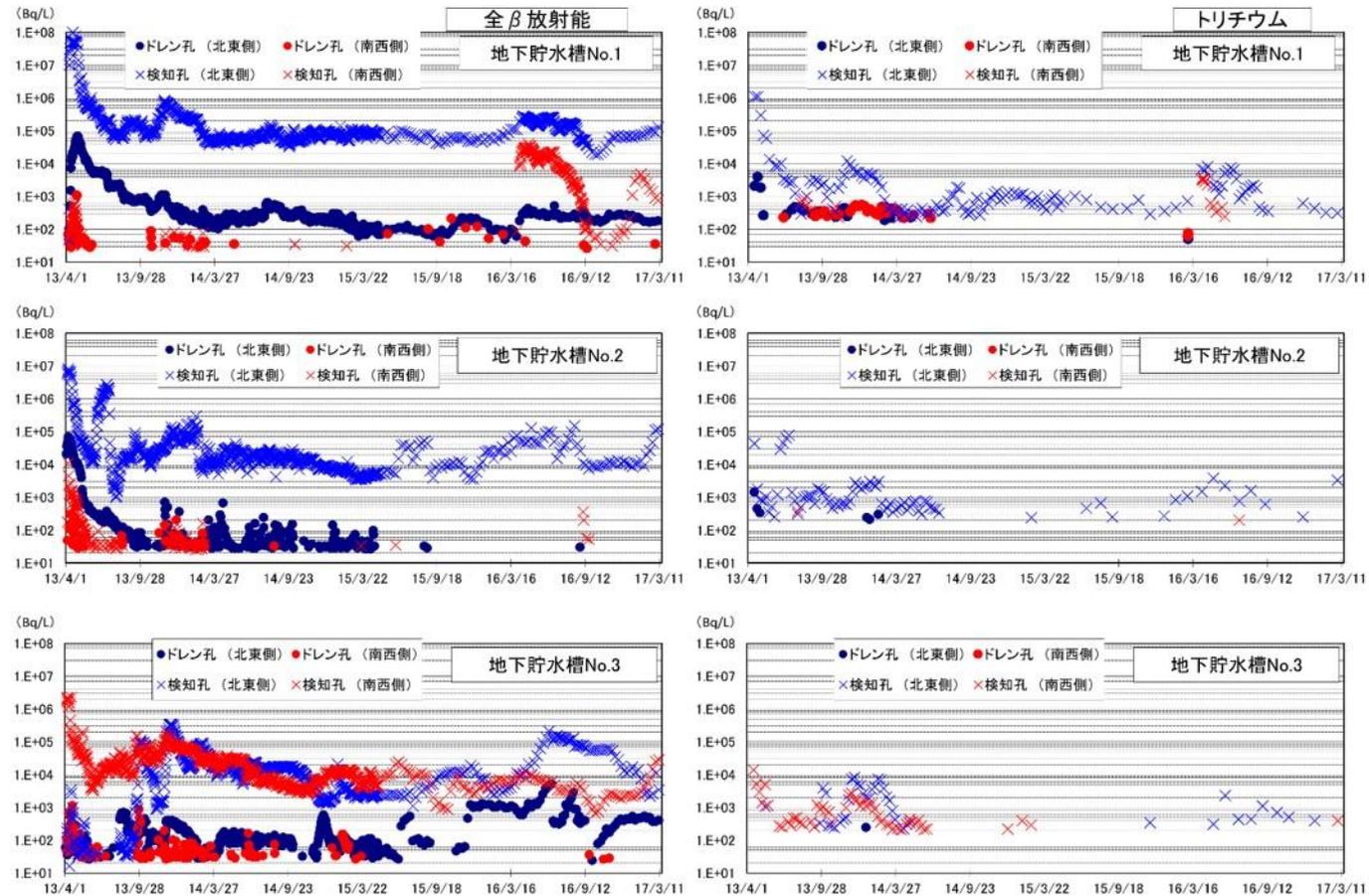


図 周辺観測孔の全ベータ濃度（2016年1月～）

- 昨年4/6に、地下貯水槽No. 1の南西側検知孔において全ベータ、トリチウム濃度が上昇したものの、トリチウムは現在ほとんど検出されていない。
- また、地下貯水槽No. 1の南西側ドレン孔の濃度に変化は見られない。

- 地下貯水槽No. 2では、北東側検知孔の全ベータ濃度に上昇が見られているが、ドレン孔には変化は見られない。
- 地下貯水槽No. 3でも、検知孔の濃度に変動が見られたが、ドレン孔の濃度には大きな変化は見られない。
- 監視を継続する。



注 検出された場合のみプロット

図 地下貯水槽No.1～3のドレン孔、検知孔の放射性物質濃度（2013年4月～）

(2) 地下水バイパスの運用状況について

地下水バイパスの運用状況について

- 地下水バイパスは、2017年3月14日に159回目 の排水を完了。排水量は、合計 263,940m³
- ポンプの運転状況を確認しつつ、適宜点検・清掃を実施中。（2017.3.14現在 10台稼働中 2台点検・清掃中）

採水日	2月1日		2月8日		2月15日		2月22日		3月1日		運用目標	※1 告示 濃度 限度	WHO 飲料水 水質 ガイド ライン
	東京電力	第三者機関											
セシウム134 (単位:Bq/L)	ND(0.63)	ND(0.80)	ND(0.65)	ND(0.80)	ND(0.52)	ND(0.70)	ND(0.66)	ND(0.70)	ND(0.62)	ND(0.65)	1	60	10
セシウム137 (単位:Bq/L)	ND(0.58)	ND(0.76)	ND(0.63)	ND(0.53)	ND(0.58)	ND(0.59)	ND(0.53)	ND(0.64)	ND(0.68)	ND(0.55)	1	90	10
その他ガンマ核種 (単位:Bq/L)	検出なし	※2 検出され ないこと											
全ベータ (単位:Bq/L)	ND(0.72)	ND(0.55)	ND(0.75)	ND(0.52)	ND(0.72)	ND(0.60)	ND(0.83)	ND(0.56)	ND(0.72)	ND(0.56)	5(1) ^(注)		
トリチウム (単位:Bq/L)	140	150	120	140	130	130	130	140	130	140	1,500	60,000	10,000
排水日	2月14日		2月21日		2月28日		3月7日		3月14日				
排水量 (単位:m3)	1,673		1,798		1,787		1,752		1,535				

* 第三者機関：日本分析センター

* NDは検出限界値未満を表し、() 内に検出限界値を示す。

(注) 運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。

※1 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度
(別表第2第六欄：周辺監視区域外の水中の濃度限度 [本表では、Bq/cm³の表記をBq/Lに換算した値を記載])

※2 セシウム134,セシウム137の検出限界値「1Bq/L未満」を確認する測定にて検出されないこと(天然核種を除く)。

(3) サブドレン他水処理施設の稼働状況

■ サブドレン他水処理施設は、集水設備、浄化設備、移送設備から構成される。

<集水設備>

サブドレン集水設備

1～4号機タービン建屋等の周辺に設置されたサブドレンピットから地下水をくみ上げる設備

地下水ドレン集水設備

海側遮水壁と既設護岸の間に設置された地下水ドレンポンドから地下水をくみ上げる設備

<浄化設備>

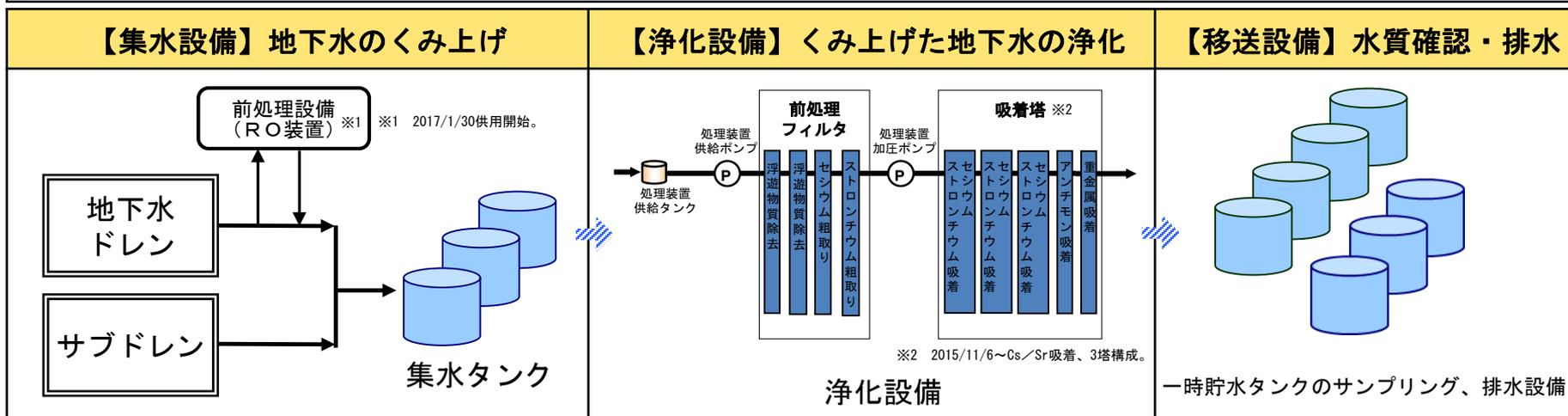
サブドレン他浄化設備

くみ上げた水に含まれている放射性核種（トリチウム除く）を十分低い濃度になるまで除去し、一時貯水タンクに貯留する設備

<移送設備>

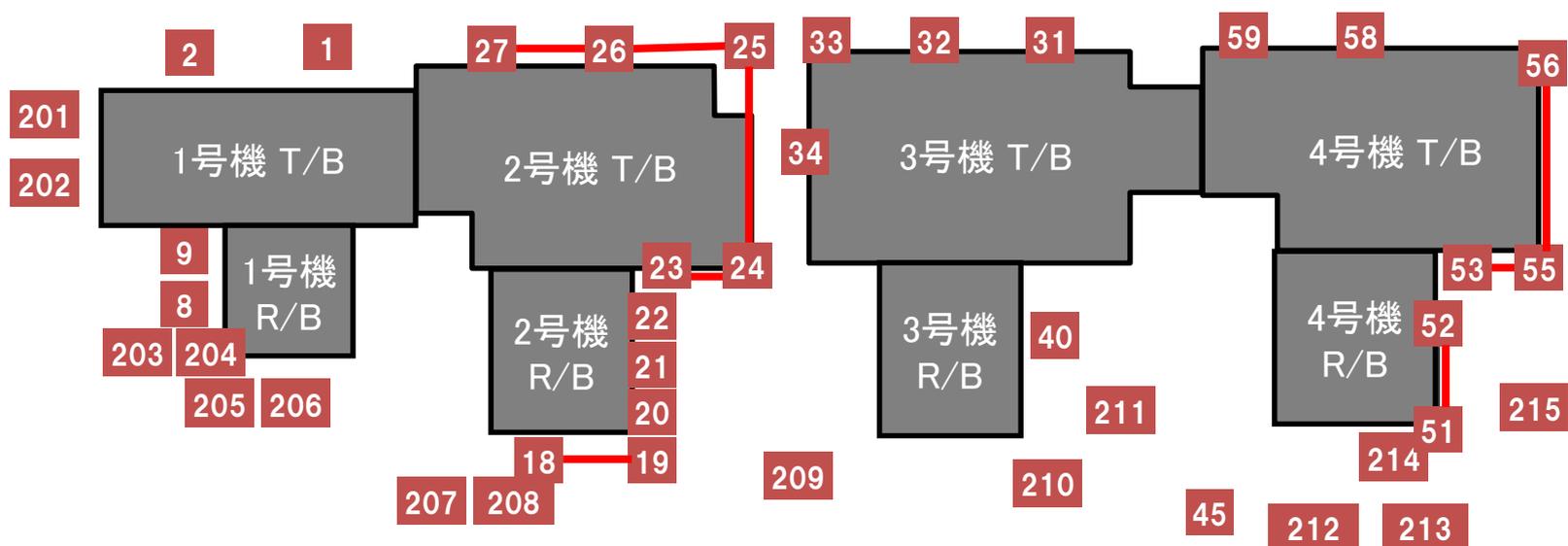
サブドレン他移送設備

一時貯水タンクに一時貯留した処理済水を水質分析した後、排水する設備



1-2. サブドレンの汲み上げ状況（24時間運転）

- 山側サブドレンL値をT.P.5,064 (O.P.6,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
 実施期間：2015年9月17日～
 L値設定：2017年2月17日～ T.P.2,000 (O.P.3,436)で稼働中。
- 海側サブドレンL値をT.P. 4,064 (O.P.5,500)から稼働し、段階的にL値の低下を実施。
 実施期間：2015年10月30日～
 L値設定：2017年2月17日～ T.P.2,000 (O.P.3,436)で稼働中。 ※
- 一日あたりの平均汲み上げ量：約400m³（2015年9月17日15時～2017年3月6日15時）



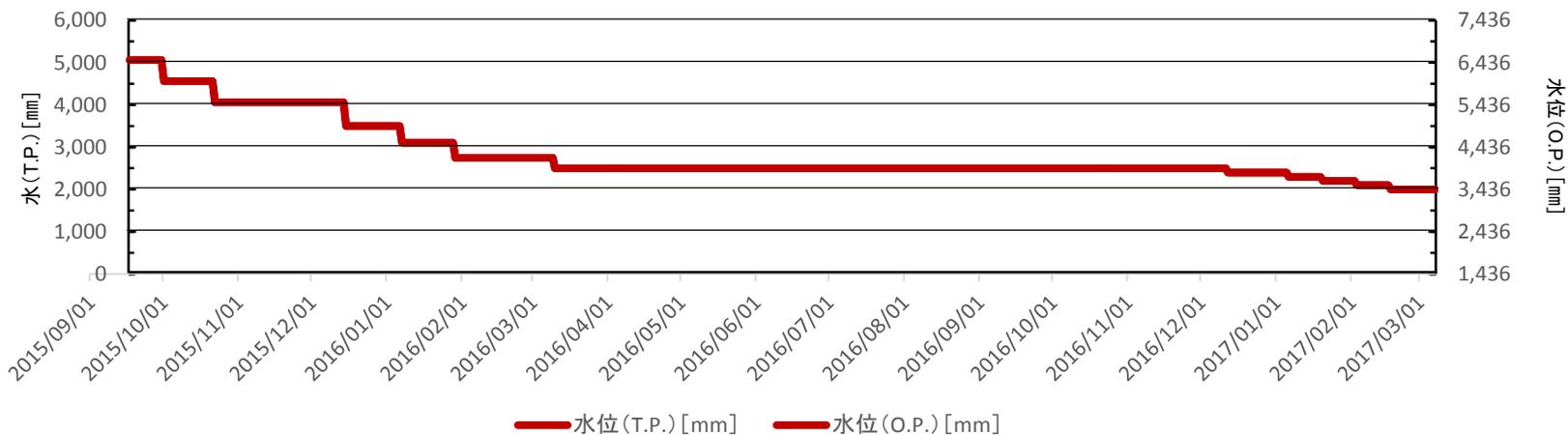
※ 2017/3/2より、サブドレンピットNo.1の汲み上げ開始。

— : 横引き管

1-3. サブドレン稼働状況

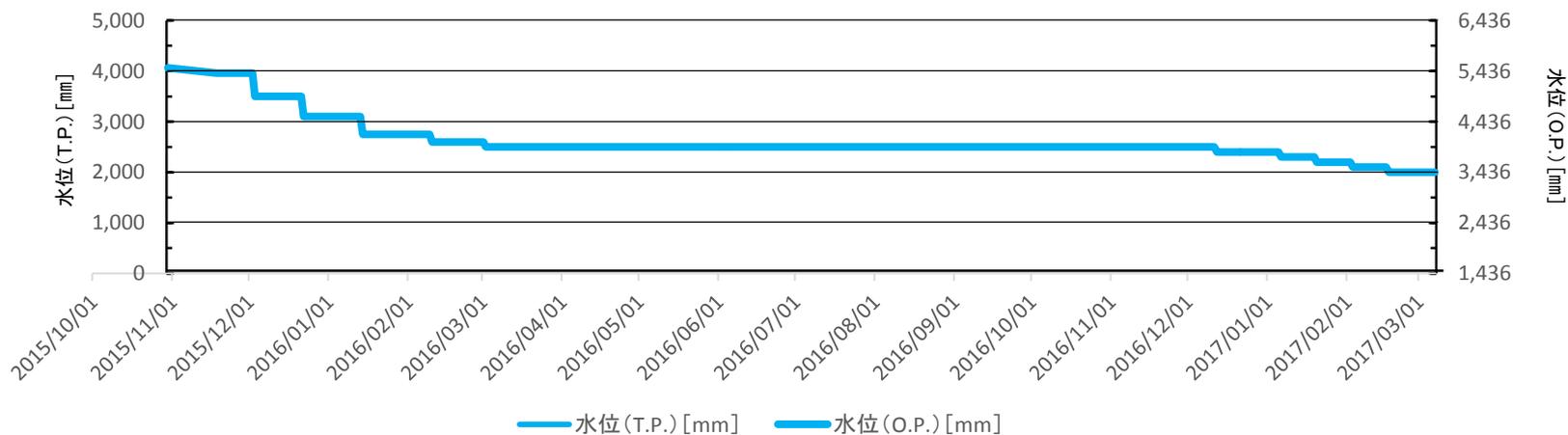
■(山側サブドレン) 2015/9/17より山側サブドレン24時間稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施し、L値設定: 2017年2月17日～ T.P.2,000 (O.P.3,436)で稼働中。

山側サブドレン(L値設定)



■(海側サブドレン) 2015/10/30より海側サブドレン稼働を開始し、以降段階的水位低下を実施し、L値設定: 2017年2月17日～ T.P.2,000 (O.P.3,436)で稼働中。

海側サブドレン(L値設定)



1-4. 至近の排水実績

- サブドレン他浄化設備は、2015年9月14日に排水を開始し、2017年3月6日までに348回目の排水を完了。排水量は、合計284,761m³。
- 一時貯水タンクの水質はいずれも運用目標（Cs134=1, Cs137=1, 全β=3, H3=1,500(Bq/L)）未満である。

排水日		2/27	2/28	3/1	3/3	3/5	3/6
一時貯水タンクNo.		D	E	F	G	A	B
浄化後の水質 (Bq/L)	試料採取日	2/22	2/23	2/24	2/26	2/28	3/1
	Cs-134	ND(0.81)	ND(0.57)	ND(0.67)	ND(0.60)	ND(0.63)	ND(0.47)
	Cs-137	ND(0.58)	ND(0.75)	ND(0.58)	ND(0.46)	ND(0.58)	ND(0.68)
	全β	ND(2.4)	ND(2.4)	ND(0.72)	ND(2.3)	ND(2.4)	ND(0.68)
	H-3	930	860	900	860	880	830
排水量(m ³)		724	902	976	627	821	870
浄化前の水質 (Bq/L)	試料採取日	2/19	2/20	2/22	2/23	2/25	2/26
	Cs-134	13	10	18	15	11	11
	Cs-137	120	94	96	89	91	78
	全β	—	280	—	—	—	—
	H-3	900	880	880	870	880	780

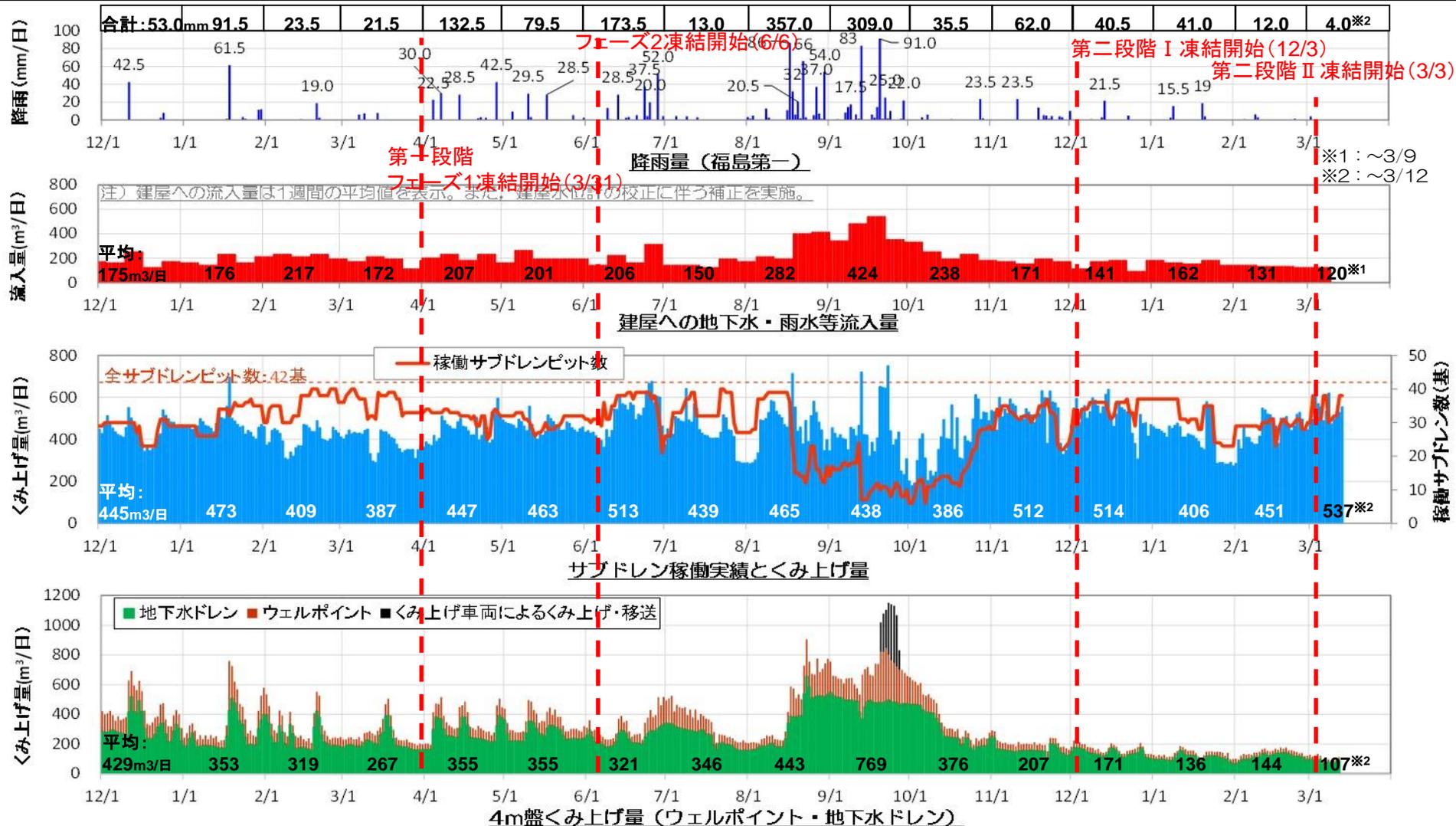
*NDは検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

*運用目標の全ベータについては、10日に1回程度の分析では、検出限界値を 1 Bq/Lに下げて実施。

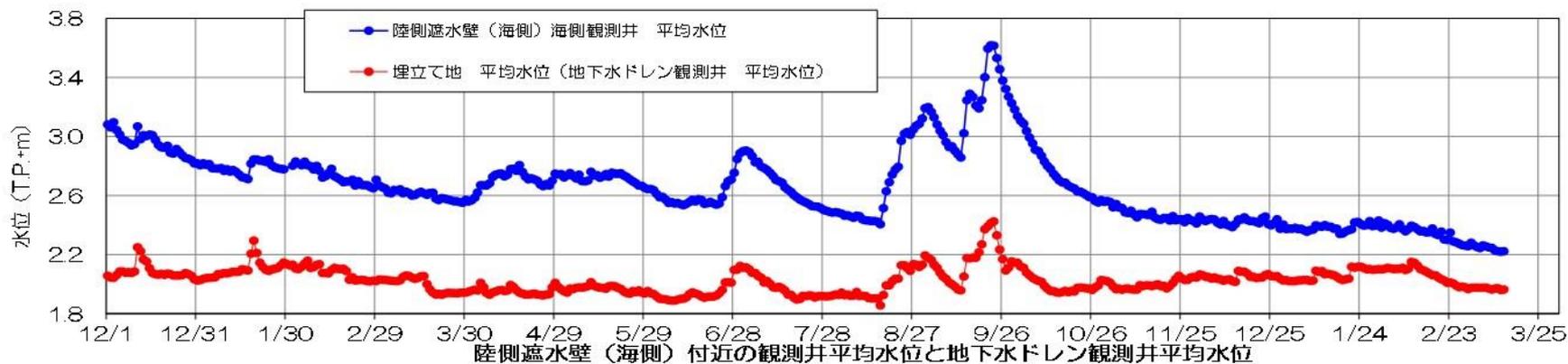
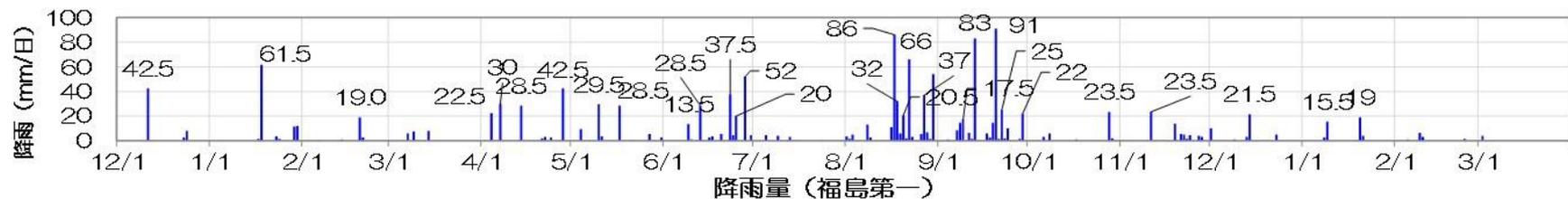
*浄化前水質における全ベータ分析については、浄化設備の浄化性能把握のため週一回サンプリングを実施。

2-1. 1F降雨と建屋への地下水流入量・各くみ上げ量の推移

- ・建屋への流入量は、10月以降降雨が少ないことと、陸側遮水壁（山側）の凍結進展およびサブドレン稼働により、建屋周辺水位が低下しており、減少傾向である。
- ・サブドレンくみ上げ量は、11月以降は安定して500m³/日程度となっている。サブドレン稼働台数は多い状態を維持している。
- ・4m盤くみ上げ量は、10月以降減少傾向が続いており、3月6日には既往最小くみ上げ量：約90m³/日となった。



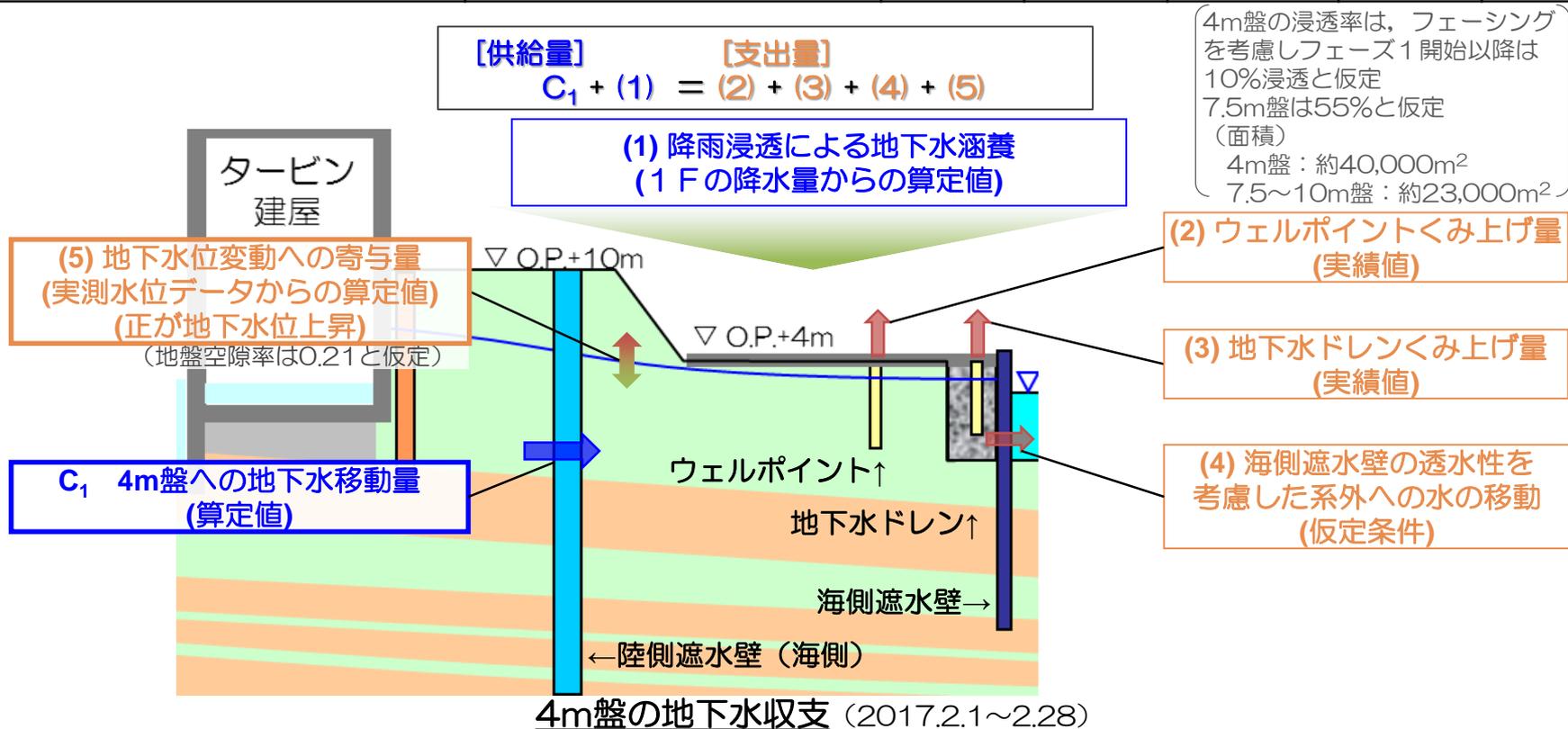
2-2. 4m盤くみ上げ量と陸側遮水壁の海側および埋立て地水位の推移



2-3. 凍結開始前と現状の4m盤の地下水収支の評価

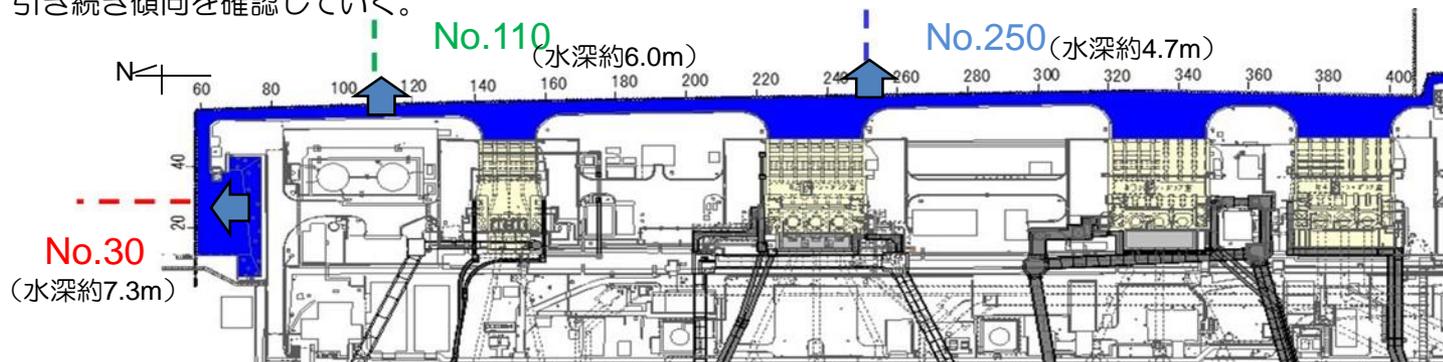
- 凍結開始前と現状で4m盤の地下水収支の評価を比較すると、4m盤への地下水移動量は段々と減少している。（降雨は多くない期間で比較）
- 減少している要因は、雨水浸透防止策（フェーシング等）、サブドレン稼働、陸側遮水壁（海側）の閉合などの複合効果によるものと考えられる

実績値(m ³ /日)	4m盤への地下水移動量 C ₁	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
2015.12.1~12.31	380	40	120	310	30	-40
2016.3.1~3.31	250	20	60	210	30	-30
2017.2.1~2.28	130	10	30	120	30	-40

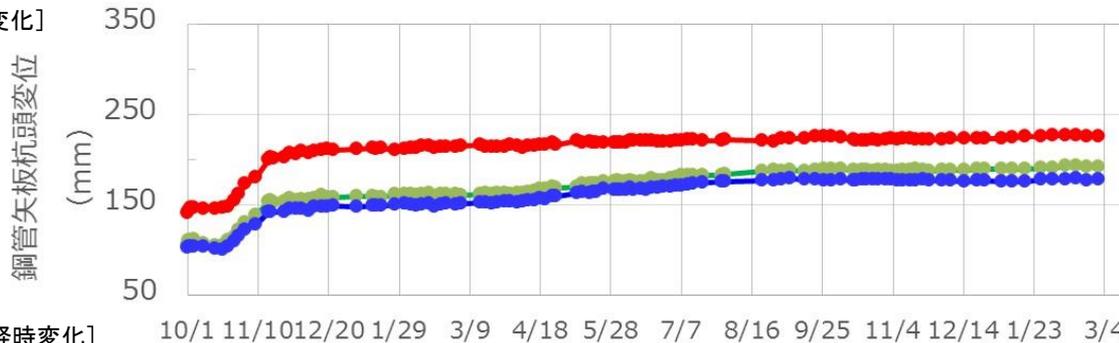


<参考 1> 鋼管矢板のたわみに伴う杭頭変位について

▶ たわみに伴い生じた鋼管矢板杭頭変位については、至近において顕著な変位増加は確認されておらず鋼管矢板の健全性に問題はないが、引き続き傾向を確認していく。



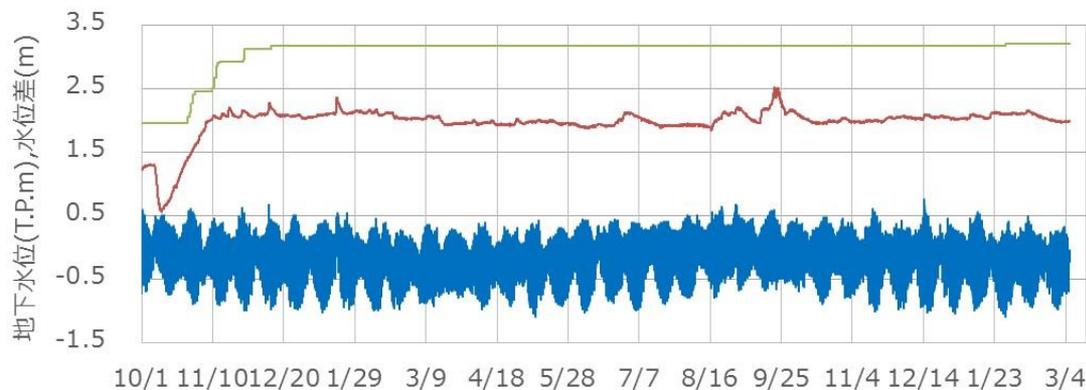
[杭頭変位の経時変化]



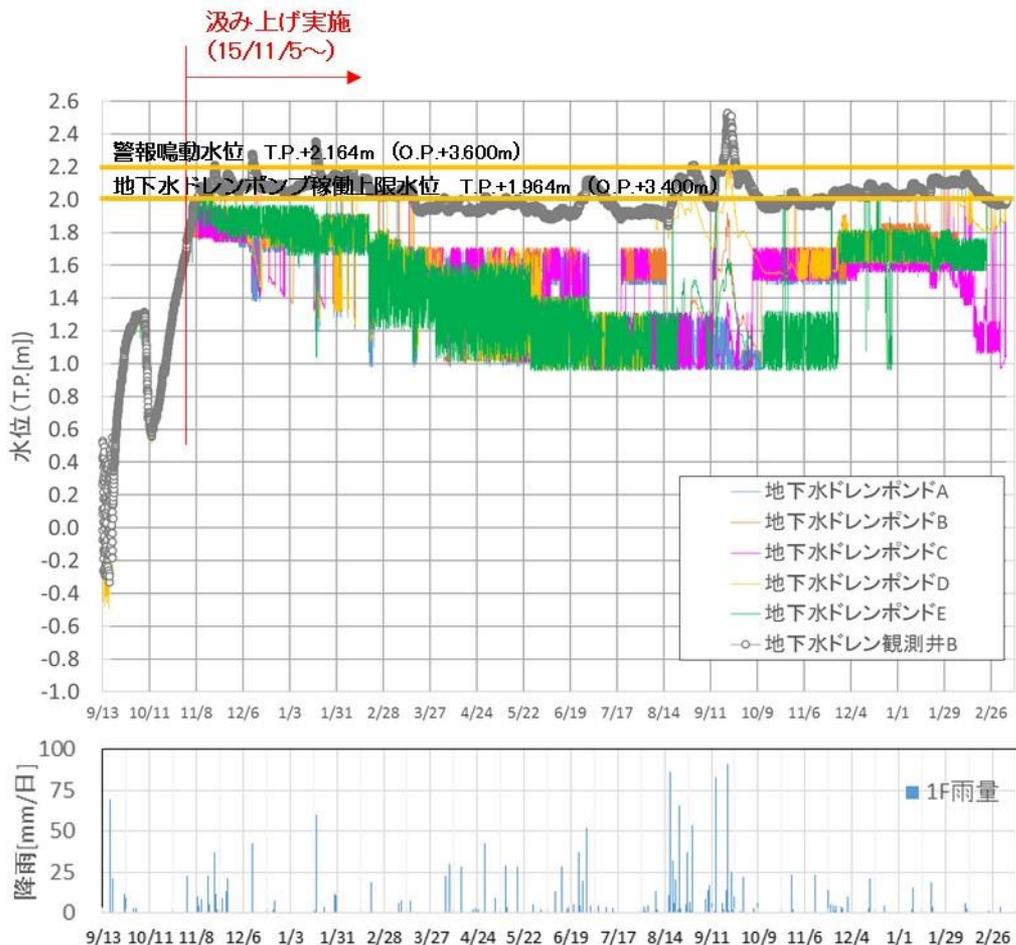
【凡例】
 - - - 代表断面
 ← 変位方向

※水深は福島第一原子力発電所の平均潮位を基準。

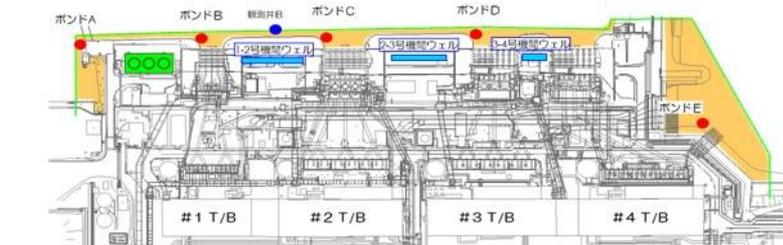
[地下水水位, 水位差の経時変化]



<参考2> 地下水ドレン水位および稼働状況



※水位(O.P.)は、震災前標高と比較しやすいよう、目安として記載しているもの。
 (水位(T.P.)を水位(O.P.)に換算する場合は、約1.4m~1.5m加算する。)
 ※水位計点検時の水位データは除く。



サブドレン集水タンク及びT/B移送量 (m³/日平均)

移送先	地下水ドレン						
	合計	ボンダA ボンダB		ボンダC ボンダD		ボンダE	
		T/B	集水タンク	T/B	集水タンク	T/B	集水タンク
01/10 ~ 01/16	133	28	0	0	59	0	46
01/17 ~ 01/23	107	32	0	0	52	0	23
01/24 ~ 01/30	104	36	0	0	51	0	17
01/31 ~ 02/06	85	34	1	0	30	0	20
02/07 ~ 02/13	120	30	1	0	74	0	15
02/14 ~ 02/20	135	26	2	0	94	0	13
02/21 ~ 02/27	117	24	2	0	87	0	4
02/28 ~ 03/06	89	16	2	0	71	0	0

※既往最低値: 合計96m³/日週平均 (H29/1/3~H29/1/9)

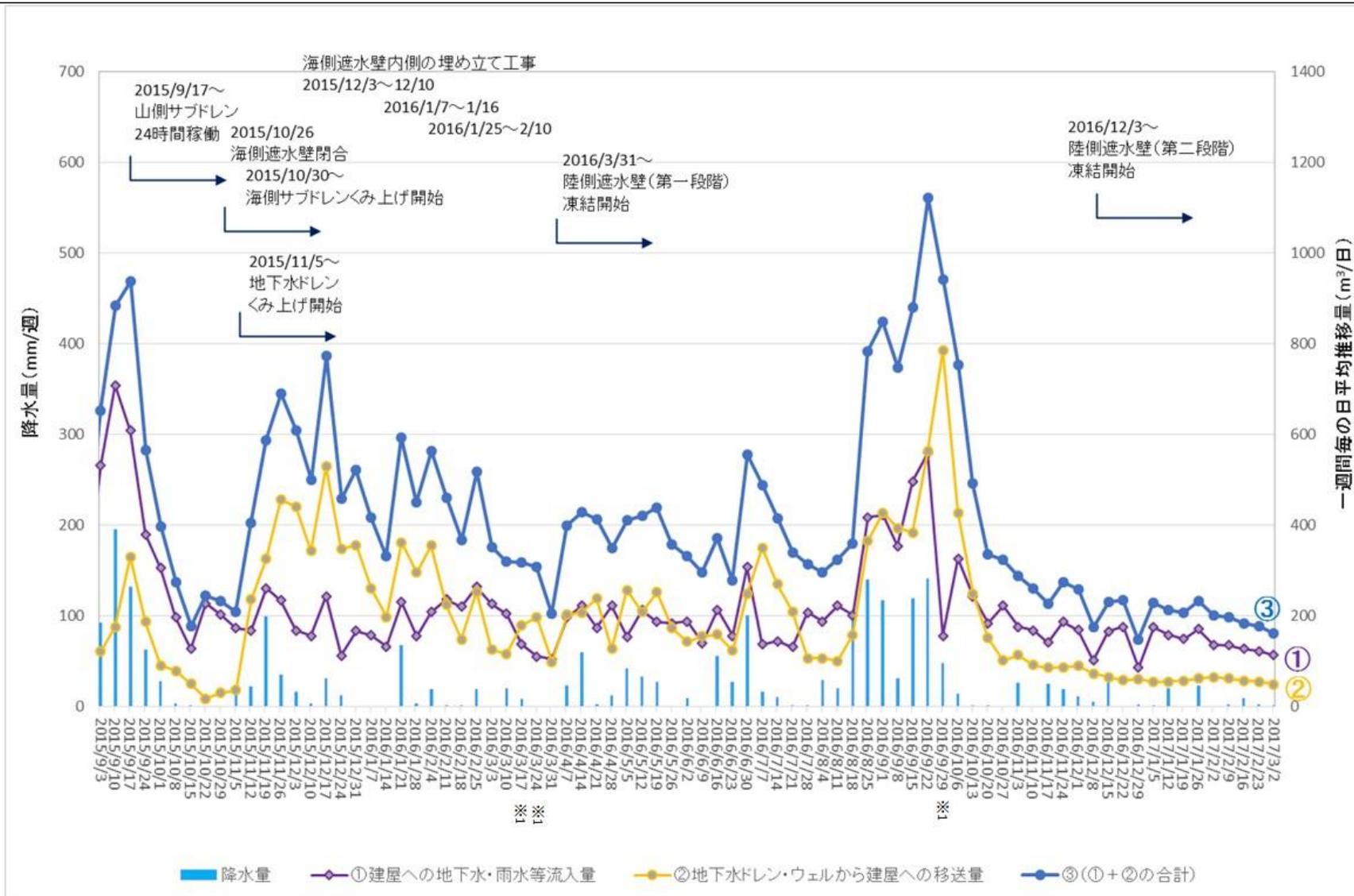
ウェルポイント移送量 (m³/日平均)

移送先	ウェルポイント			
	合計	1-2号間 T/B	2-3号間 T/B	3-4号間 T/B
01/10 ~ 01/16	30	30	0	0
01/17 ~ 01/23	27	27	0	0
01/24 ~ 01/30	29	29	0	0
01/31 ~ 02/06	31	31	0	0
02/07 ~ 02/13	30	29	0	1
02/14 ~ 02/20	29	29	0	0
02/21 ~ 02/27	27	27	0	0
02/28 ~ 03/06	28	28	0	0

※移送先のT/Bはタービン建屋、集水タンクはサブドレン集水タンク

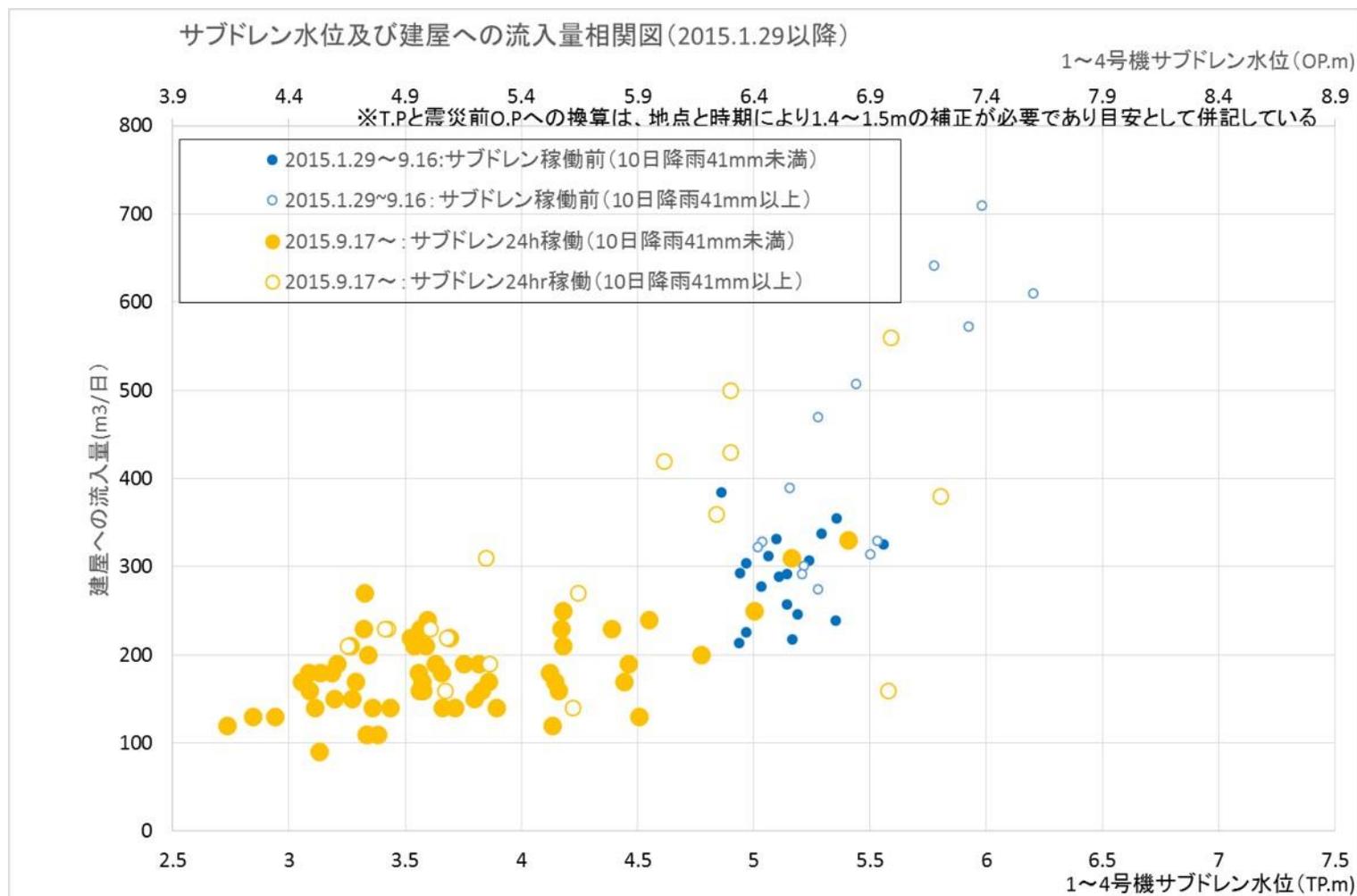
<参考3> 建屋への地下水ドレン移送量・地下水流入量等の推移

- ①建屋への地下水・雨水等流入量: 113m³/日, ②地下水ドレン・ウェルからの建屋への移送量: 49m³/日, ③(①+②の合計): 162m³/日, 降雨量: 0.5mm/週
- ※1 建屋水位計の校正を実施

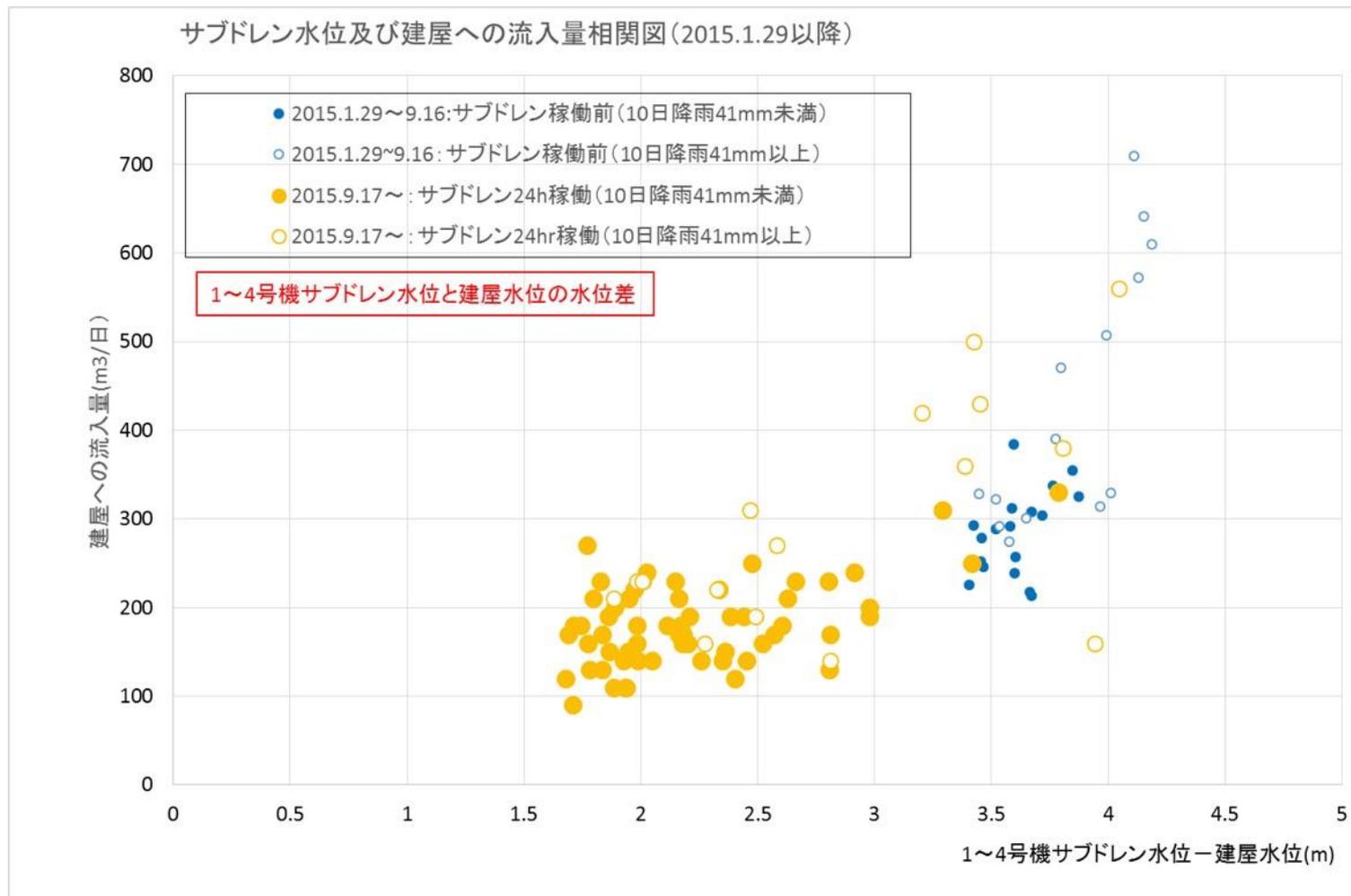


2017.3.2現在

- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位と相関が高いことから、サブドレンの水位(全孔平均)でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働によりサブドレン水位がTP3.5mを下回ると、建屋への流入量も100~200m³/日までにになっている。



- 建屋への地下水流入量はサブドレンの水位－建屋水位とも相関が高いことから、サブドレンの水位(全孔平均)－建屋水位でサブドレン稼働の影響を評価した。
- サブドレン稼働により水位差が2mを下回ると、建屋への流入量も100～200m³/日までにになっている。



<参考6>サブドレンピット水質一覧 (2017.3.7現在)



単位：Bq/L

	建屋	ピット	セシウム 134	セシウム 137	全β	トリチウム	採取日
アンバ設既	1号機	1	ND(8.1)	32	45	16,000	H29 02/20
		2	ND(6.2)	ND(4.1)	ND(11)	15,000	H29 02/20
		3	18,000	120,000	120,000	910	H29 02/20
		8	ND(4.6)	23	41	ND(100)	H29 02/26
		9	ND(8.3)	19	26	1,700	H29 02/23
	2号機	18	32	230	250	410	H29 02/23
		19	120	830	1,000	580	H29 02/23
		20	ND(5.6)	ND(4.4)	17	740	H28 06/24
		21	ND(4.8)	14	14	ND(110)	H28 06/24
		22	6.6	44	36	190	H28 06/24
		23	ND(5.7)	31	14	150	H29 02/24
		24	58	370	450	1,200	H29 02/24
		25	210	1,400	1,800	2,900	H29 02/24
		26	17	160	320	190	H29 02/24
		27	32	180	500	ND(110)	H29 02/20
	3号機	31	ND(5.1)	13	140	220	H29 02/24
		32	ND(4.4)	ND(4.5)	ND(11)	ND(110)	H29 02/20
		33	ND(4.1)	9.8	ND(12)	ND(110)	H29 02/24
		34	7.8	66	78	180	H29 02/24
		37	ND(5.5)	18	22	ND(110)	H29 02/28
40		28	200	220	ND(100)	H29 02/23	

●「ND」は検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

	建屋	ピット	セシウム 134	セシウム 137	全β	トリチウム	採取日
アンバ設既	4号機	45	ND(4.1)	ND(4.3)	ND(12)	ND(100)	H28 06/29
		51	ND(3.5)	ND(5.0)	ND(12)	ND(100)	H28 06/29
		52	ND(8.9)	ND(15)	ND(18)	ND(130)	H27 08/12
		53	ND(9.3)	ND(18)	ND(11)	ND(130)	H27 08/25
		55	ND(10)	ND(16)	ND(11)	ND(130)	H27 08/25
		56	ND(4.1)	ND(3.8)	ND(11)	ND(110)	H29 02/20
		57	ND(5.0)	23	ND(11)	ND(100)	H28 11/16
		58	ND(10)	18	ND(12)	ND(130)	H27 11/06
		59	ND(3.5)	6.7	ND(15)	150	H28 07/11
		新設 アンバ設	1号機	201	ND(5.7)	ND(3.8)	ND(11)
202	ND(4.6)			ND(4.4)	ND(10)	ND(120)	H28 06/23
203	ND(5.6)			ND(5.6)	ND(10)	ND(120)	H28 06/23
204	ND(4.3)			5.9	21	ND(120)	H28 06/23
205	ND(4.7)			ND(3.8)	ND(10)	ND(120)	H28 06/23
206	ND(5.2)			ND(4.5)	ND(11)	ND(100)	H29 02/23
207	ND(8.0)			13	32	700	H29 02/23
2号機	208		ND(3.9)	ND(4.3)	ND(11)	120	H28 06/24
	209		ND(3.5)	ND(4.7)	ND(12)	ND(100)	H29 02/23
3号機	210		ND(3.9)	3.6	ND(12)	ND(100)	H28 06/29
	211		ND(4.2)	16	54	ND(100)	H28 06/29
	212		ND(3.7)	ND(3.9)	ND(12)	ND(100)	H28 06/29
4号機	213		ND(4.5)	ND(3.4)	12	ND(100)	H28 06/29
	214		ND(5.2)	ND(3.8)	ND(12)	ND(100)	H29 02/23
	215		ND(11)	ND(14)	ND(18)	ND(130)	H27 08/12